

譲渡した場合における譲受人の売拂代金の延納期間を延長し、現行の三年を五年に改めると共に、現行法では財産税法及び戦時補償特別措置法による物納財産の場合に限られておりますが、これを拡張して所得税法及び相続税法による物納財産の場合にも延納の特約をすることができる」といたしました。

第四に、現行法では国の学校の用に供する目的を以て、地方公共団体により無償で國の用に供せられた財産を、國がその用に供しないときは、これを当該地方公共団体に無償で返還しがれをならないこととなつておりますが、これを拡張して学校以外の教育施設についても適用することといたしました。

次に國家公務員共済組合法の規定による年金の額の改正に関する法律案を提案いたしました理由について御説明申上げます。

御承知のように公務員の給與は本年一月以後その水準が改定されたのであります。昭和二十五年十二月三十一日以前に退職した共済組合の年金受給者の年金の額は、従前の給與水準に基づき算定することとなつておりますので、これを新給與の水準まで引上げるものであります。以下簡単にこの法律案の要旨を御説明申上げます。

先づ年金の改定は、昭和二十六年一月分以後の年金算定の基礎となつた俸給を、公務員の新給與の基準に直して計算することといたし、又国家公務員共済組合法施行以前の公務に起因する年金についても同様に増額することにいたしました。

用、即ち既給年金者に対する年金額の引上げにより増加する費用は、國、地方公共団体又は公社がそれぞれ負担することにいたしました。

次に不正保有物資等特別措置特別会計法等を廃止する法律案提出の理由を御説明申上げます。

従来、不正保有物資及び過剰物資については、國が直接に買取、売拂を行ふことに関する経理を一般会計と区別して明確に行つたために不正保有物資等特別措置特別会計を設置し経理すると共に、これらの物資を政府が譲り受けた場合には、當該物資の性質に鑑み、その対価を登録国債で決裁することに由來する法律が制定せられ、これにより買取が行われて参つたのであります。

今回これららの物資の処理の進捗状況に鑑みまして、不正保有物資等特別措置特別会計法及び不正保有物資等の対価を登録国債で決済することに關する法律の二法律を廃止することといたしました。

次に郵便貯金特別会計法案提出の理由を御説明申上げます。

第三点は、この会計において、郵便貯金の利子の支拂上、一時、現金に不足を来たしました場合には、郵便貯金の受入金を當該年度内に限り繰替使用

することができる途を開き、事業運営の円滑を図ろうとする点であります。

第四点は、この会計におきましては、当分の間、毎会計年度の歳入が不足することと予測されますが、その歳入不足を補填するため、當該年度において、予算の定めるところにより、一般

金運用部資金法の制定に伴いまして、郵便貯金の大宗であります郵便貯金の事業につきまして、その健全な経営を図ると共に、その経理を明確にいたしますため、新たに特別会計を設

用、即ち既給年金者に対する年金額の引上げにより増加する費用は、國、地方公共団体又は公社がそれぞれ負担することにいたしました。

次に本法律案の内容の概略を申上げます。

第一に、郵便貯金事業の経理は、前に述べましたように本会計において行うこととなるわけであります。

第二に、郵政事業特別会計の業務は、従来通り郵政事業特別会計において行うこととなるわけであります。

第三に、本法律案の内容の概略を申上げます。

○松永義雄君 このたび国民金庫に對して融資額の増額されることは非常に結構なことでございますが、併し

より、一般会計に繰戻すことになったそとであります。

以上、本法律案の主要な点について概略申述ましたが、その他の予算及び概算申述ですが、併し

次に、第一に、郵便貯金事業の経理は、前に述べましたように本会計において行うこととなるわけであります。

第二に、この会計の歳出歳入につきましては、資金運用部預託金の利子、借入金及び附属雑収入を以てその歳

出としてあります。

第三点は、この会計において、郵便貯金の利子の支拂上、一時、現金に不足を来たしました場合には、郵便貯金の受入金を当該年度内に限り繰替使用

することができます。

以上の理由によりまして、この法律案を提出いたしました次第であります。

何とぞ、御審議の上速かに御賛成あらんことをお願い申上げます。

○委員長(小串清一君) 国民金融公庫法の一部を改正する法律案につきましても、大体百八十億円から二百億円ぐら

いの需要額があるかと存

或いは滋賀県なら滋賀県といった全国的の地方的の府県におきまして、その事務所が十分の活動ができるほどに行渡つておるかどうか。その数においてな不足するところがあつて、もつとんどんどし事業所を殖やして行かなければならぬのじやないか。現在需要額は現在の事務所、出張所程度から見られたものであつて、そうした事務所、出張所に申込んで来る額だけだと存ずるのであります。若しこれ以上出張所なり、事務所を殖やして、数を増して行つたなら、それだけ国民金融金庫という観念が一般にしみ込んで来るだらうし、すでに存在しているそうした方面的需要額に加えて、更にこうした金融機関もあるかということに気が付いて、それじやおれも申込んで見るかといつたようない需要が出て來るのはないかと思うわけであります。現在の実態程度において、出張所なり、事業所のあるもので十分に金融金庫の日指しておる生産資金という目的を十分達し得られるかどうか、その点について……。

す。ところが只今お話をございましたように、各府県に一つずつというのが原則になつております。従いまして、どうしても所在地のかたゞが比較的便宜と申しますか、この公庫を御活用できる立場にいらっしゃる、多少離れた地方にいらつしやいますかたゞに対しましては、これは第一に人手の関係が中心でございますが、これ又予算で現在七百七十人、来年度になりますから、九百二十人増員になりますから、そういう程度の職員しか予算上認めで頂けない関係もありますて、大変恐縮なんありますが、手が回りかねるのであります。そういう工合で、実は地方のほうにサービスができないことは全国で四百四十二の代理所を以ちまして、代理貸付制度の貸付によつて、これを補つて参るよう今まで折角努力して参りましたのであります。やはりこれも人手を通じますといふ關係、その他の關係からしまして十分な効果と申しますか、成績を擧げるに至つておりますが、全国至るところに同様に皆さんのために成績を擧げて行くという点までには至りませんことを大変残念に思い、恥かしく思つておるわけであります。できる限りそういう點、万遍なく行渡りますように、かねぐ、努力はいたしております。どうぞ御了承願いたいのであります。

は、積極的に進んで行かなければならぬこと、政府委員の御答弁なさつたこと、在の事情の下においても幾多の欠陥があつて、十分に資金が行渡らないという事情になつてゐるかと存するのであります。例えば聞くところによりますと、無論貸出ということについては極めて、十人當り一日調査費、交通費などと、それにつけて調査費といふもの非常に少いといふか、一人當り一日調査費、交通費といふかが現状であります。例えば聞くところによりますと、無理貸出ということについては極めて僅少な額で十分の調査ができる杳として歩く調査費、交通費といふかが現状であります。折角こういう人には貸してあげたいと思つても調査ができないし、調査する費用が極めて少いためにその章に附うことができないというような状態であるのです。そういう事情になつておるのでしようか。それは一体どういうふうに改正して行つたらいいのか、そういう点について御意見を伺いたいと思います。

り、或いはその調査の能率を挙げます。ためには、いろいろな交通機関の活動もいたさねなりませんので、その活動のいろ／＼な出費も必要かと思うのですが、一応現在のところではござりますが、旅費関係におきまして、公務員であります、という關係、その予算関係におきまして申上げたのであります。そういう關係から手を抜くことがないか、調査に当つて不十分になることはない、というふうなことは、私どもその局に戒め合いまして、その全能主義を挙げて十分な調査ができるよう、その範囲内で最大限度の効果を挙げることを常々留意し合つていたしておるのであります。大体一応そういうことに御承願いたいと思います。

な工合で、國の金融金庫の狙つておる層といふものに対する金融の途といふものが極めて細いのです。こうした層の保護育成と言いますが、金融面における保護育成の途は、どうしたつてこれは國家が強力に臨んで行かなければならん筋だと思うのであります。すると、然るに只今お話しのように、一日の旅費が僅か八十円そこそかなるようなことは金融政策において当を得ないものがあるのではないかと思ひます。これはいろいろの点から国民金融金庫というものの立場を活かして、そうして十分活用できるよう方法を講じなければならんと思うのであります。その第一が、まあ極めて卑近な一日の旅費までも僅か八十円。それでは駄目じやないか。更に中上げて見たいことは、國家で保護しなければならんのでありますけれども、併しこの国民金融金庫と言えば、これも言葉は悪いかも知れませんが、やはり商売の途であると存するので、そこに従事している人の十分に活躍し得る途が講じられてはいけねばならん。まあ国家公務員といふ点もありますけれども、例えば輸出銀行の行員と言いますか、従業員が割合に多大の手当を受けている様子であります。それと使命を同じくしておる金融機関である国民金融庫においては公務員という、同じ公務員であつても少し立場が違つて来る。國家公務員と言わざるために手当が非常に少い。こういう人たちにもただ徒らに我々がそういつた国民金融金

庫の従業員に対しておもねるのではないのでありまして、十分に活躍して、そうして十分に金融の途を圖つて頂くためには、そういう人たちの手当といふものをして行かなければならんと思ふのであります。一体現状の下において旅費も足りない、恐らく給與にも食い込んで行くというようなことでは、十分に金融の途が開かれているとは言ふないと思ふのであります。一体そういった国民金融庫の仕事に従事しておるかたの手当をどういうふうにお考えになりますか。

○説明員(橋田光男君) 私からお答え

するのはどうかと思うのであります

が、只今のお話非常に感慨深く聴いて

いたのであります。御承知のように

法律上国家公務員とということになつて

いたのであります。御承知のように

法律上國家公務員とということになつて

おりますので、この国民金融公庫は御

承知のように一昨年の六月、元の庶民

金庫及び恩給金庫を統合いたしまして

国民金融公庫と相成つたのであります

。それと同時に従来は純粹の民間機

関でございましたが、國家公務員とい

うことになつたのであります。私ども

が一般国民大衆に対しまして、私ども

の全能力を挙げましてサービスいたす

そのパブリック・サービスとしての

職務を盡すという点においては、まさ

しく国家公務員で、法律上國家公務員

とされましょととめられなくともその

つもりであります。又そのつもりでやつ

ておるのであります。ただ給與の点

になりますと、まあ同じく金融

の仕事をしておらましても、他の

金融機関と比較して見ます

と、どうも実情は先ほど申上げました

ように大体半分見当ではなかろうか。

ただ私どもは只今のお話大変有難く拜

聽いたしたのであります。が、給與が低

いからといって現在私どもに課せられ

ておる仕事、それを蔑ろにする、そ

うことは毛頭ございません。朝から

晩まで全く粉骨碎身やつておりますこ

とをお認め願いたい。それだけはお願

いたしたい次第であります。

○松永義雄君 もう一点、私は大蔵大

臣の出席を特に願いたいと思

つておりますが、おいでにならんので遺

憾に存じますが、とにかく預全額の金

にしても貧乏人の血と汗の結晶を長期

の貸出しに向けられる。大体は我々勤

め入る預金部の金をこうした国民金融公

庫というような方面に向けられないと

いうことは非常に遺憾に思つてゐる

手当を出しておりますが、現在公庫職

員全体の平均の給與ベースが一万四百

円、これは公務員全体のベースから比

較いたしますと、若干多いことになり

ますけれども、年齢の構成から言いま

す。たしか二歳乃至三歳、全体の公務

員よりは多いはずであります。又特殊

の仕事をいたします関係上、教育の関

係と申しますか、出身学校等を比較し

て見ましても、大学卒業者が全体の約

四割近くいるという関係がありまし

て、これも全体の平均から比較します

と、倍以上の職員費が必要ことになる

ような次第であります。従つて一万四

百円というのは、公務員としても全体

として平均がとれているといったよう

なところにあるわけであります。これ

でございまして、その金を一部の大きなほうに廻し

て、その金を一部の大きなほうに廻し

て……この間も勧銀の総裁の公聽会で

お話をあつたように、資本蓄積は結構

だけれども、資本蓄積に汲々として、

その結果いろいろ述べられたのであり

ますが、税制改革は根本的にやらなければならんという御意見もあつた。私

が金儲けして家財産が溜つたところで、

これがなんとかなりますと、金額であります

簡単に申しますと、大体先般公務員全

体の給與ベースのお引上げが実行されたのでありますけれども、一般の銀行等に比較して見ますれば、恐らくあるものをして行かなければならんと思ふのであります。一体現状の下において旅費も足りない、恐らく給與にも食い込んで行くというようなことでは、十分に金融の途が開かれているとは言ふないと思ふのであります。一体そういった旅費も足りない、恐らく給與にも食い込んで行くといふふうにお考えになりますか。

○説明員(橋田光男君) 私からお答え

するのはどうかと思うのであります

が、只今のお話非常に感慨深く聴いて

いたのであります。御承知のように

法律上國家公務員とということになつて

おりますので、この国民金融公庫は御

承知のように一昨年の六月、元の庶民

金庫及び恩給金庫を統合いたしまして

国民金融公庫と相成つたのであります

。それと同時に従来は純粹の民間機

関でございましたが、國家公務員とい

うことになつたのであります。私ども

が一般国民大衆に対しまして、私ども

の全能力を挙げましてサービスいたす

そのパブリック・サービスとしての

職務を盡すという点においては、まさ

しく国家公務員で、法律上國家公務員

とされましょととめられなくともその

つもりであります。又そのつもりでやつ

ておるのであります。ただ給與の点

になりますと、まあ同じく金融

の仕事をしておらましても、他の

金融機関と比較して見ます

と、どうも実情は先ほど申上げました

ように大体半分見当ではなかろうか。

ただ私どもは只今のお話大変有難く拜

聽いたしたのであります。が、給與が低

いからといって現在私どもに課せられ

ておる仕事、それを蔑ろにする、そ

うことは毛頭ございません。朝から

晩まで全く粉骨碎身やつておりますこ

とをお認め願いたい。それだけはお願

いたしたい次第であります。

○松永義雄君 もう一点、私は大蔵大

臣の出席を特に願いたいと思

つておりますが、おいでにならんので遺

憾に存じますが、とにかく預全額の金

にしても貧乏人の血と汗の結晶を長期

の貸出しに向けられる。大体は我々勤

め入る預金部の金をこうした国民金融公

庫といふふうな方面に向けられないと

いうことは非常に遺憾に思つてゐる

手当を出しておりますが、現在公庫職

員全体の平均の給與ベースが一万四百

円、これは公務員全体のベースから比

較いたしますと、若干多いことになり

ますけれども、年齢の構成から言いま

す。たしか二歳乃至三歳、全体の公務

員よりは多いはずであります。又特殊

の仕事をいたします関係上、教育の関

係と申しますか、出身学校等を比較し

て見ましても、大学卒業者が全体の約

四割近くいるという関係がありまし

て、これも全体の平均から比較します

と、倍以上の職員費が必要ことになる

ような次第であります。従つて一万四

百円というのは、公務員としても全体

として平均がとれているといふふうにお考えになりますか。

とをお認め願いたい。それだけはお願

いたしたい次第であります。

○松永義雄君 もう一点、私は大蔵大

臣の出席を特に願いたいと思

つておりますが、おいでにならんので遺

憾に存じますが、とにかく預全額の金

にしても貧乏人の血と汗の結晶を長期

の貸出しに向けられる。大体は我々勤

め入る預金部の金をこうした国民金融公

庫といふふうな方面に向けられないと

いうことは非常に遺憾に思つてゐる

手当を出しておりますが、現在公庫職

員全体の平均の給與ベースが一万四百

円、これは公務員全体のベースから比

較いたしますと、若干多いことになり

ますけれども、年齢の構成から言いま

す。たしか二歳乃至三歳、全体の公務

員よりは多いはずであります。又特殊

の仕事をいたします関係上、教育の関

係と申しますか、出身学校等を比較し

て見ましても、大学卒業者が全体の約

四割近くいるという関係がありまし

て、これも全体の平均から比較します

と、倍以上の職員費が必要ことになる

ような次第であります。従つて一万四

百円というのは、公務員としても全体

として平均がとれているといふふうにお考えになりますか。

○野溝勝君 橋田さんにお聞きして置

きました。一つ国民金融公庫のかたん

ども大蔵大臣にお伝え

願ひまして、十分にこうした生業資金

によつて生活を営んでおるものに対し

て広く深く施設を拡められんことを切

りたいとして……これを大蔵大臣にお伝

え願いたいと思います。一つ、希望を

述べまして、私の質問を終りたいと思

います。

○野溝勝君 橋田さんにお聞きして置

きました。一つ国民金融公庫のかたん

ども大蔵大臣にお伝え

願ひまして、十分にこうした生業資金

によつて生活を営んでおるものに対し

て広く深く施設を拡められんことを切

りたいとして……これを大蔵大臣にお伝

え願いたいと思います。一つ、希望を

述べまして、私の質問を終りたいと思

います。

○説明員(橋田光男君) 小口貸付の現

況を申上げますと、金額であります

が、これは業務案内書で最高限がきめ

てございまして、個人一人の場合、普

通五万円、特別の場合十万円、十万円

が最高になります。連帶になります

が、その生活を安定して楽しく生き

に苦しまなければならない。これは政

治の目標を、本末顛倒したものであ

ります。最高百万円といふところになつ

ておられます。現実の状況を見ますと、

ぜられます。ただ公務員ではあります

が、法律にあります通り特殊の仕事を

いたしております関係から、特別に俸

給額の一割を超えない範囲内で特別

の手当を支給することができるという

明文がございまして、人事院等ともよ

く御相談いたしました結果、その範囲

内におきまして、大体その見当の特別

手当を出しておりますが、現在公庫職

員全体の平均の給與ベースが一万四百

円、これは公務員全体のベースから比

較いたしますと、若干多いことになり

ますけれども、年齢の構成から言いま

す。たしか二歳乃至三歳、全体の公務

員よりは多いはずであります。又特殊

の仕事をいたします関係上、教育の関

係と申しますか、出身学校等を比較し

て見ましても、大学卒業者が全体の約

四割近くいるという関係がありまし

て、これも全体の平均から比較します

と、倍以上の職員費が必要ことになる

ような次第であります。従つて一万四

百円というのは、公務員としても全体

として平均がとれているといふふうにお考えになりますか。

○野溝勝君 橋田さんにお聞きして置

きました。一つ国民金融公庫のかたん

ども大蔵大臣にお伝え

願ひまして、十分にこうした生業資金

によつて生活を営んでおるものに対し

て広く深く施設を拡められんことを切

りたいとして……これを大蔵大臣にお伝

え願いたいと思います。一つ、希望を

述べまして、私の質問を終りたいと思

います。

○説明員(橋田光男君) 小口貸付の現

況を申上げますと、金額であります

が、これは業務案内書で最高限がきめ

てございまして、個人一人の場合、普

通五万円、特別の場合十万円、十万円

が最高になります。連帶になります

が、その生活を安定して楽しく生き

に苦しまなければならない。これは政

治の目標を、本末顛倒したものであ

ります。最高百万円といふところになつ

ておられます。現実の状況を見ますと、

ぜられます。ただ公務員ではあります

が、法律にあります通り特殊の仕事を

いたしております関係から、特別に俸

給額の一割を超えない範囲内で特別

の手当を支給することができるといふふ

うふうにお考えになりますか。

○野溝勝君 橋田さんにお聞きして置

きました。一つ国民金融公庫のかたん

ども大蔵大臣にお伝え

願ひまして、十分にこうした生業資金

によつて生活を

事実県民から言わせると、国民金融公庫などあつても何の役にも立たない。小口の貸付などは貿易でないといふことを言われておるのですが、私はその不可解なる言葉がこの表によつて具体化したように思うのですが、こういう点はどういうように一体あなたのほうでは考えるのか。

○説明員(櫛田光男君) 每四半期ごとに資金計画、事業計画を国民金融審議会といふ、これは法律上は大蔵省の諮問機関であります、その審議会の議を経て四半期ごとの資金の配分、資金の使用等について一応おきめを頂くのであります、が、大体先ほども申上げましたように、極めて資金の量が少いのであります、これを全国にどう配分するかといふのはいつも頭を悩ます。今後改めるべきかどうかということが、まだよく金額的には十分に御期待に付きます。今後はできるだけ逐次これを伸ばして行くことにつきましては、この上とも努力をいたしたいと思つております。

○野溝勝君 櫛田さんにお聞きするの

支所なり代理店なりの処理能力、いろいろなことを噛み合せまして一応決定して資金の配分をいたすようなわけでありますし、必ずしも機械的には行つておらんのであります、どうしても大変に需要が多くなるような傾きがないでもございません。それから只今のお話の長野県の場合でございますが、これが又非常に大きな県であります、私どもの本当の仕事の上から見

ますと、例えは南信地方の松本あたり

から御答弁を聞こうとはいたしませ

ん。それよりは率直に審議会が、そ

ういう不親切なことをされては困る

ね。小口貸付のほうですよ。ちよつと

いう資金の散布についてどうしても不

可解な点があるならば、それはあなた

先ほども申しましたよなことで、長

野県には一つしか置けないという関係

のであります、が、いろ／＼な関係、

先ほども申しましたよなことで、長

野市に今店がござります、そ

の店も実は昨年の十月から仕事を始めましたような関係からいたしまして、

野県には一つしか置けないという関係

から、長野市に今店がござります、そ

の店も実は昨年の十月から仕事を始めましたような関係からいたしまして、

野県には一つしか置けないという関係

のであります、が、いろ／＼な関係、

先ほども申しましたよなことで、長

野県には一つしか置けないとい

う関係

が、いろ／＼な関係

広く愛好されているが、これを原料とした果実酒が保健飲料であること

はいまだないが、今日これが一般

人のし好に適さないのはその醸造工程において完全なはつ醉を行うために果

実中に含まれている糖分を残すことが

許されないためであり、これが製造の工

程中適量のアルコール添加が許され適量の甘味を残すことができるならば、その用途は洋々たるものがあり、またわが国食糧問題の解決にこう献するところ大であるから、果実酒実現について格段の配慮をせられたいとの陳情。

第一六〇号 昭和二十六年二月十五日受理

徵稅整理期の中小企業金融対策に関する陳情

陳情者 東京都議会議長 石原永明外九名

朝鮮動乱以来特需の増加、輸出の進展等により経済界は活況を呈しつつあるといえ、大多数の中小企業者は自己資本の蓄積に乏しく優秀な技術や経験

を有しながら依然として經營難の状態にあり特にこの二月、三月の徵稅整理期に面して憂慮される状況にあるから、業界の金融難打開のために、(一)中小都市に中小企業金融特別店舗の設置、(二)日本銀行の中小企業金融関係特別わく融資限度の引上げ、(三)預金部資金の中小金融専門金融機関への預託増額等の措置を講ぜられたいとの陳情。

二月二十六日本委員会に左の事件を付託された。

一、所得稅法の一部を改正する法律案(予備審査のための付託は二月十九日)

一、法人稅法の一部を改正する法律案(同)

一、通行稅法の一部を改正する法律案(同)

一、登錄稅法の一部を改正する法律案(同)

一、相統稅法の一部を改正する法律案(同)

一、印紙稅法の一部を改正する法律案(同)

一、骨牌稅法の一部を改正する法律案(同)

一、國民金融公庫法の一部を改正する法律案(同)

一、開拓者金融通特別会計において貸付金の財源に充てるための一般会計からする繰入金に関する法律案(同)

一、租稅特別措置法の一部を改正する法律案(予備審査のための付託は二月十日)

一、附 則

この法律は、公布の日から施行する。

第七條中「三百円」を「三万円」に改める。

第六條中「千円」を「五万円」に改める。

トヲ得ズ

為認メラレタルモノト之ヲ解スルコ

其ノ身分ヲ証スル證票ヲ示スベシ

第一項ノ検査ノ權限ハ犯罪検査ノ

第五條に次の二項を加える。

当該官吏前項ノ検査ヲ為ストキハ

券」に改める。

第一六一號 昭和二十六年二月十五日受理

徵稅整理期の中小企業金融対策に関する陳情

同日予備審査のため、本委員会に左の事件を付託された。

一、商品券取締法の一部を改正する法律案

商品券取締法の一部を改正する法律案

商品券取締法の一部を改正する法律案

商品券取締法(昭和七年法律第二十八号)の一部を次のように改正する。

第一條第一項第一号中「各省大臣」の下に「經濟安定本部總裁、」を

加える。

第三條第六項中「第四項」を削り、

同條第七項中「及び第四項から前項までを」、第四項及び第五項に改め、同條第四項を削り、同條第五項まで「を」、第四項及び第五項に改め、同條第四項とし、以下一項ずつ

項を同條第四項とし、以下一項ずつ

(昭和二十五年法律第百四十四号)の一部を次のとおりに改正する。

第一條第一項第一号中「各省大臣」の下に「經濟安定本部總裁、」を

加える。

第三條第六項中「第四項」を削り、

同條第七項中「及び第四項から前項までを」、第四項及び第五項に改め、同條第四項とし、以下一項ずつ

項を同條第四項とし、以下一項ずつ

行者に提示しなければならない。

同條第六項中「旅行命令書等」を

「旅行命令簿等」に改める。

第六條第十四項を次のように改める。

内國旅行のうち第二十六條第一項に規定する旅行については、第一項に掲げる旅費に代え、日額旅費を旅費として支給する。

第十四條 刪除

第十五條中「第五項又は第六項」を

「第四項又は第五項」に改める。

第十五條第一項第一号ハ中「相

当する額」を相当する額。但し、六

歳未満の者を二人以上随伴するとき

は、これを一人とみなしてその移転

の際における職員相当の鉄道賃の一

分の一に相当する金額を加算する。」

に改める。

第二十六條を次のように改める。

(日額旅費)

第二十六條 第六條第一項に掲げる

旅費に代え日額旅費を支給する旅

行は、左に掲げる旅行のうち当該

旅行の性質上日額旅費を支給する

ことを適當と認めて大蔵大臣が指

定するものとする。

一 測量、調査、土木營繕工事、

巡査その他これらに類する目的的

のための旅行

二 長期間の研修、講習、訓練そ

の他これらに類する目的的ため

の旅行

三 前二号に掲げる旅行を除く

外、その職務の性質上常時出張

を必要とする職員の出張

2 日額旅費の額、支給条件及び支

給方法は、各府の長が大蔵大臣に

協議して定める。但し、その額

は、当該日額旅費の性質に応じ、

第六條第一項に掲げる旅費の額に

ついてこの法律で定める基準をこ

えることができない。

第二十九條第一項第二号中「船賃」

を「鉄道賃、船賃」に改める。

第四十六條第一項を次のように改

める。

各府の長は、旅行者が公用の交

通機関、宿泊施設等を利用して旅

行した場合その他旅行における

特別の事情に因り又は当該旅行

の性質上この法律又は旅費に関する

他の法律の規定による旅費を支

給した場合には不當に旅行の実費

をこえた旅費又は通常必要としな

い旅費を支給することとなる場合

においては、その実費をこえるこ

となる部分の旅費又はその必要

としない部分の旅費を支給しない

ことができる。

同條第二項中「旅費の全部又は一部を支給しないこととする場合」を「同項の規定により旅費を支給しないこととする場合」に改める。

第四十七條第二項を削る。

附則第四項中「死亡手当の定額」の下に「着後手当及び扶養親族移転料

の額の計算の基礎とするこれらの旅費の定額を含む。」を加える。

附則第八項を次のように改める。

8 外国旅行については、当該旅行の期間とその旅行開始直前十日前

の準備期間を通じた期間が二会

計年度にわたる場合の旅費は、当

分の間、当該二会計年度のうち前

会計年度の歳出予算から概算で支

出することができる。

附 則

1 この法律は、公布の日から施行

する。

2 この法律による改正後の国家公

務員等の旅費に関する法律の規定

は、昭和二十六年四月一日以後に

出発する旅行から適用し、同日前

に出発した旅行については、なお

従前の例による。但し、改正後の

同法附則第八項の規定は、この法

律施行の日以後に出発する旅行か

ら適用する。

3月一日予備審査のため、本委員会

に左の事件を付託された。

一、農林漁業資金融通特別会計法案
一、閑税定率法の一部を改正する法律案

（設置）

農林漁業資金融通特別会計法案

（送付）

農林漁業資金融通特別会計法（昭和

二十六年法律第号。以下「法」と

この会計の歳入歳出予定計算書を

いう。による貸付に関する政府の経理を明確にするため、特別会計を設置し、一般会計と区分して経理する。

第一條 この会計は、農林大臣が、法令の定めるところに従い、管理する。

（資本）

第三條 この会計においては、第四條第一項に規定する一般会計及び米国対日援助見返資金特別会計からの繰入金に相当する金額をもつて資本とする。

（歳入及び歳出）

第四條 この会計においては、貸付金の償還金及び利子、一般会計及び米国対日援助見返資金特別会計からの繰入金、第十二條の規定による借入金並びに附属雑収入をもつてその歳入とし、貸付金、同條の規定による借入金の償還金及び利子、事務取扱費その他の諸費をもつてその歳出とする。

（歳入歳出予算の区分）

第五條 この会計の歳入歳出予算は、歳入の性質及び歳出の目的に従つて、款及び項に区分する。

（予算の作成及び提出）

第六條 内閣は、毎会計年度、この

会計の予算を作成し、一般会計の予算とともに、国会に提出しなければならない。

（予算の作成及び提出）

第七條 内閣は、毎会計年度、この

会計の予算を作成し、一般会計の予算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第八條 この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第九條 内閣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第十條 農林大臣は、毎会計年度、この会計の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第十一條 内閣は、毎会計年度、この会計の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第十二條 この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第十三條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第十四條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第十五條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

作製し、大蔵大臣に送付しなければならない。

2 前項の歳入歳出予定計算書には、左の書類を添附しなければならぬ。

（歳入歳出決定計算書の作製及び送付）

一 前前年度の貸借対照表及び損益計算書

（歳入歳出決定計算書の作製及び送付）

2 前年度及び当該年度の予定貸

借対照表及び予定損益計算書

（歳入歳出決定計算書の作製及び送付）

3 前年度及び当該年度の貸付計

画表

（歳入歳出予算の区分）

第六條 この会計の歳入歳出予算は、歳入の性質及び歳出の目的に従つて、款及び項に区分する。

（予算の作成及び提出）

第七條 内閣は、毎会計年度、この

会計の予算を作成し、一般会計の予算とともに、国会に提出しなければならない。

（予算の作成及び提出）

第八條 この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（予算の作成及び提出）

第九條 内閣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（予算の作成及び提出）

第十條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（予算の作成及び提出）

第十一條 内閣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（予算の作成及び提出）

第十二條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（予算の作成及び提出）

第十三條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（予算の作成及び提出）

第十四條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

は、当該剰余金（当該年度において、前條の規定により一般会計に繰り入れなければならない額があるときは、その額を控除したもの）を翌年度の歳入に繰り入れなければならない。

（歳入歳出決定計算書の作製及び送付）

2 前項の歳入歳出予定計算書には、左の書類を添附しなければならぬ。

（歳入歳出決定計算書の作製及び送付）

3 前年度及び当該年度の予定貸

借対照表及び予定損益計算書

（歳入歳出決定計算書の作製及び送付）

4 前年度及び当該年度の貸付計

画表

（歳入歳出予算の区分）

第五條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第六條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第七條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第八條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第九條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第十條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第十一條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

第十二條 農林大臣は、毎会計年度、この会計において、毎会計

の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに、国会に提出しなければならない。

（歳入歳出決算の作成及び提出）

限度として、この会計の負担において、資金運用部から借入金をすることができる。(借入金の借入及び償還等の事務)

第十三條 前條の規定による借入金の借入及び償還に関する事務は、大蔵大臣が行う。

(国債整理基金特別会計への繰入) 第十四條 第十二條の規定による借入金の償還及び利子の支出に必要な金額は、毎会計年度、国債整理基金特別会計に繰り入れなければならない。

(経費支出の制限)

第十五條 この会計において、第十一條の規定による借入金の利子及び事務取扱費の他の諸費を支出するには、毎会計年度末におけるこれらの経費の支出額の合計額が当該年度末における貸付金の利子及び附属収入の収納額の合計額をこえないようにしなければならない。
(余裕金の預託) 第十六條 この会計において、支拂上現金に余裕があるときは、資金運用部に預託することができる。(資金交付) 第十七條 政府は、法第五條第一項の規定により金融機関に対し貸付に関する業務を委託した場合においては、当該金融機関に対し貸付に必要な資金を交付することができる。

(支出未済額の繰越)

第十八條 この会計において、支拂義務の生じた歳出金で、当該年度の出納の完結までに支出済とならなかつたものに係る歳出予算は、翌年度に繰り越して使用することができる。

(支拂義務の生じた歳出金で、当該年度の出納の完結までに支出済とならなかつたものに係る歳出予算は、翌年度に繰り越して使用することができる。)

第十九條 第二條の規定による繰越をしたときは、大蔵大臣及び会計検査院に通知しなければならない。

第二條 第一項の規定により繰越をしたときは、当該経費については、財政法(昭和二十二年法律第三十四号)第三十一條第一項の規定による予算の配賦があつたものとみなす。

(実施規定)

第十九條 この法律の実施のための手続その他その施行について必要な事項は、政令で定める。

第二條 従徴税品ノ課税価格ハ其ノ物品ノ輸出ノ際ニ當該物品又ハ同種ノ物品ガ輸出國ニ於テ通常ノ卸取引ノ量及方法ニ依リ販売セラル価格(輸出ニ際シ免除又ハ拂戻ヲ受ケキ内国消費税ノ額ヲ除ク)ニ輸出港ニ於ケル船積運ノ通常ノ費用(課徴金ヲ課セラルル場合ニ於テハ其ノ課徴金ヲ含ム)並ニ本邦輸入港ニ至ル迄ノ運賃及保険料ヲ加ヘタル価格トス

第五條ノ二 不当廉売品ノ輸入又ハ輸入申告書ニ添付セラレタル仕入書其ノ他ノ書類ニ依リ前項ノ課税価格ヲ決定スルコトヲ得ル場合ニ於テハ此等ノ書類ニ依リ同項ノ課税価格ヲ決定ス

第一、米、穀、大麦、小麦又ハ小麦粉ニ付左ノ各号ノ一二該当スル事由アルトキハ政令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ指定シ之ニ對シ期間ヲ定メ其ノ輸入税ヲ低減又ハ免除ス

第三條、第四條及び第五條中「輸入税ヲ控除シタルモノヲ以テ課徴税格トス」第五條ノ二第一項を次のように改める。

第一、米、穀、大麦、小麦又ハ小麦粉ノ第二條第一項ノ課税価格ニ輸入税及卸売市場ニ至ル迄ノ費用ヲ加算シタルモノガ一般ニ国産ノ同等品ノ国内卸売価格ヨリ高価ナルトキ

二、凶作又ハ天災、事変其ノ他緊急ノ場合ニ於テ必要アルトキ

第七條中第四号を次のように改め

第一、米、穀、大麦、小麦又ハ小麦粉ニ付左ノ各号ノ一二該当スル事由アルトキハ政令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ指定シ之ニ對シ期間ヲ定メ其ノ輸入税ヲ低減又ハ免除ス

第二、被ル虞アル旨ノ申出アリタル場合ニ於テ政府必要ナル調査ヲ為シ不當廉売ノ事業ヲ確認シ且当該事業

第十七條 第十三号の三を同條第十一号の四とし、同條第十三号の二の次に次の二号を加える。

第十八條 第十三号の三農林漁業資金融通特別会計の経理を行なうこと。

第三、退職職員に支給する退職手当支給の財源に充てるための特別会計

等からする一般会計への繰入及び納付に關する法律(昭和二十五年法律第六十二号)の一部を次のよう改訂する。

第一條中「国営競馬特別会計」の下に「農林漁業資金融通特別会計」一加える。

関税定率法の一部を改正する法律案

関税定率法の一部を改正する法律

関税定率法(明治四十三年法律第五十四号)の一部を次のように改訂する。

第二條を次のように改める。

第二條 従徴税品ノ課税価格ハ其ノ物品ノ輸出ノ際ニ於テ通常ノ卸取引ノ量及方法ニ依リ販売セラル価格(輸出ニ際シ免除又ハ拂戻ヲ受ケキ内国消費税ノ額ヲ除ク)ニ輸出港ニ於ケル船積運ノ通常ノ費用(課徴金ヲ課セラルル場合ニ於テハ其ノ課徴金ヲ含ム)並ニ本邦輸入港ニ至ル迄ノ運賃及保険料ヲ加ヘタル価格トス

第五條ノ二 不当廉売品ノ輸入又ハ輸入申告書ニ添付セラレタル仕入書其ノ他ノ書類ニ依リ前項ノ課税価格ヲ決定スルコトヲ得ル場合ニ於テハ此等ノ書類ニ依リ同項ノ課税価格ヲ決定ス

第一、米、穀、大麦、小麦又ハ小麦粉ノ第二條第一項ノ課税価格ニ輸入税及卸売市場ニ至ル迄ノ費用ヲ加算シタルモノガ一般ニ国産ノ同等品ノ国内卸売価格ヨリ高価ナルトキ

二、凶作又ハ天災、事変其ノ他緊急ノ場合ニ於テ必要アルトキ

第七條中第四号を次のように改め

第一、米、穀、大麦、小麦又ハ小麦粉ニ付左ノ各号ノ一二該当スル事由アルトキハ政令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ指定シ之ニ對シ期間ヲ定メ其ノ輸入税ヲ低減又ハ免除ス

第二、被ル虞アル旨ノ申出アリタル場合ニ於テ政府必要ナル調査ヲ為シ不當廉売ノ事業ヲ確認シ且当該事業

第十七條 第十三号の三を同條第十一号の四とし、同條第十三号の二の次に次の二号を加える。

第十八條 第十三号の三農林漁業資金融通特別会計の経理を行なうこと。

第三、退職職員に支給する退職手当支給の財源に充てるための特別会計

ニ記載セラレタル事実が眞実ト認メ

マルコト能ハザルトキ其ノ他此等ノ書類ニ依リ難キ事由アリト認メラルルトキハ最近ニ輸入港ニ到着シタル同種又ハ類似ノ物品ノ前項

ノ書類ニ付既ニ納付セラレタル関税ノ期間長期ニ亘リタル物品ニシテ

ノ期間短期ニ亘リタル物品ニシテ其ノ物品ノ価格當該期間中ニ著シタク変動シ第二項ニ依リ課税価格ヲ決定スルコト著シク不適當ト認メラルルトキ亦前項ニ同ジ

前各項ノ規定ニ依リ其ノ物品ノ課税価格ヲ決定スルコト能ハザルトキハ同種又ハ類似ノ物品ノ国内ニ於ケル卸売価格ヨリ輸入税ノ他

ノ課徴金及輸入港ヨリ卸売市場ニ至ル迄ノ費用ヲ控除シタルモノヲ

決定スルコト著シク不適當ト認メラルルトキ亦前項ニ同ジ

第六條を次のように改める。

第六條 米、穀、大麦、小麦又ハ小麦粉ニ付左ノ各号ノ一二該当スル事由アルトキハ政令ノ定ムル所ニ依リ當該物品ヲ指定シ之ニ對シ期間ヲ定メ其ノ輸入税ヲ低減又ハ免除ス

第六條 第二項中「前項ノ規定ニ準ジ」に、「附加関税」を「同項ノ規定ニ準ジ」に、「附加」を削除

税額ノ開税ノ合計額ヨリ當該物品ニ付既ニ納付セラレタル開税ノ額ヲ控除シタル額ニ相当スル開税

税」を「同項ノ開税ノ合計額ヨリ當該物品ニ付既ニ納付セラレタル開税ノ額ヲ控除シタル額ニ相当スル開税」に改め、同條第三項中「附加」を削除。

同條第二項中「前項ノ規定ニ準ジ」に、「附加開税」を「同項ノ規定ニ準ジ」に、「附加」を削除

税額ノ開税ノ合計額ヨリ當該物品ニ付既ニ納付セラレタル開税ノ額ヲ控除シタル額ニ相当スル開税

税」を「同項ノ規定ニ準ジ」に、「附加」を削除

税額ノ開税ノ合計額ヨリ當該物品ニ付既ニ納付セラレタル開税ノ額ヲ控除シタル額ニ相当スル開税

税」を「同項ノ規定ニ準ジ」に、「附加」を削除

税額ノ開税ノ合計額ヨリ當該物品ニ付既ニ納付セラレタル開税ノ額ヲ控除シタル額ニ相当スル開税

税」を「同項ノ規定ニ準ジ」に、「附加」を削除

税額ノ開税ノ合計額ヨリ當該物品ニ付既ニ納付セラレタル開税ノ額ヲ控除シタル額ニ相当スル開税

税」を「同項ノ規定ニ準ジ」に、「附加」を削除

税額ノ開税ノ合計額ヨリ當該物品ニ付既ニ納付セラレタル開税ノ額ヲ控除シタル額ニ相当スル開税

税」を「同項ノ規定ニ準ジ」に、「附加」を削除

該物品ノ正当価格ニ対スル開税ヲ

課スルト共ニ正当価格ト當該物品ノ不當廉売価格トノ差額ニ相当スル額ノ開税ヲ併セ課スルコトヲ得

別表

輸入稅表

番号	品名	税率
一〇一	第一類 植物及び動物(生活力を有するものに限る。) 栽培用又は接木用の植物、枝、幹、茎及び根	無税
一〇二	培植用菌類 一 酵母 二 その他	無税
一〇三	馬牛、羊 めん、羊 やぎ	無税
一〇四	豚 家きん類	無税
一〇五	魚介類 一 種用の魚介及び魚卵 二 その他	無税
一〇六	動物(別号に掲げるものを除く。) 第二類 穀物、穀粉、でん粉類及び種 みつばち	無税
一〇七	米及びもみ	無税
一〇八	大麦 バールバーレー	無税
一〇九	小麦 オート	無税
一〇一〇	豆類 一 大豆、あづき、そら豆及びえんどう 二 緑豆 三 落花生	無税
一一一	穀粉及びでん粉類 一 小麦粉 二 オートミール及びコーンミール 三 タビオカ、マニオカ及びサゴ 四 コーンスターク 五 その他	無税
一一二	えごまの種 ごまの種	無税
一一三	菜種及びからし菜の種 亞麻の種	無税
一一四	大麻の種 ひまの種	無税
一一五	綿の種	無税
一一六	亞麻の種	無税
一一七	大麻の種	無税
一一八	ひまの種	無税
一一九	菜種及びからし菜の種	無税
一一一〇	亞麻の種	無税
一一一一	大麻の種	無税
一一一二	ひまの種	無税
一一一三	亞麻の種	無税
一一一四	大麻の種	無税
一一一五	ひまの種	無税
一一一六	菜種及びからし菜の種	無税
一一一七	亞麻の種	無税
一一一八	大麻の種	無税
一一一九	ひまの種	無税
一一二〇	菜種及びからし菜の種	無税
一一二一	亞麻の種	無税
一一二二	大麻の種	無税
一一二三	ひまの種	無税
一一二四	菜種及びからし菜の種	無税
一一二五	亞麻の種	無税
一一二六	大麻の種	無税
一一二七	ひまの種	無税
一一二八	菜種及びからし菜の種	無税
一一二九	亞麻の種	無税
一一三〇	大麻の種	無税
一一三一	ひまの種	無税
一一三二	菜種及びからし菜の種	無税
一一三三	亞麻の種	無税
一一三四	大麻の種	無税
一一三五	ひまの種	無税
一一一	第三類 採油用の種(別号に掲げるものを除く。) 製造用ナット 穀物及び種(医薬用のもの及び別号に掲げるものを除く。) 飲食物及びたばこ この類において「かん詰、びん詰又はつぼ詰のもの」とは、かん、びん又はつぼに入れたもので、容器との一個の重量が十キログラムをこえないものをいう。	無税
一一二	この類においてかん詰、びん詰及びつぼ詰には、氣密でないものを含む。 この類において「アルコール分」とは、攝氏十五度において原容量中に含まれる純アルコール(攝氏十五度における比重が0・七九四七のアルコールをいう。)の容量の原容量に対する百分比をいう。	無税
一一三	野菜、海藻(食用に適するものに限る)、果実及びナット 一 砂糖、糖みつ、糖水又ははちみつを加えたもの 二 その他	無税
一一四	甲 かん詰、びん詰又はつぼ詰のもの 乙 その他の イ 野菜及び海藻 イの一 生のもの	無税

三〇一	イの二 その他	口 その他
三〇二	やしの実	茶
三〇三	マーテ その他の茶の代用物	ココア (砂糖を加えたものを除く。)
三〇四	コーヒー	チコリー その他のコーヒーの代用物
三〇五	ココア豆	マーテ その他の茶の代用物
三〇六	一 ココア豆	ココア (砂糖を加えたものを除く。)
三〇七	二 その他	チコリー その他のコーヒーの代用物
三〇八	胡椒	マーテ その他の茶の代用物
三〇九	カレー	ココア (砂糖を加えたものを除く。)
三一〇	マスターード	チコリー その他のコーヒーの代用物
三一一	砂糖	マーテ その他の茶の代用物
三一二	一 しょ糖の重量が全重量の百分の九十八をこえないもの (車糖を除く。)	二 その他
三一三	二 水砂糖、角砂糖、棒砂糖その他これらに類するもの 糖みつ	三 砂糖をしょ糖として計算した重量が全重量の百分の六十 をこえないもの
三一四	三 ぶどう糖、麦芽糖及びあめ はちみつ	四 その他の 糖分をしょ糖として計算した重量が全重量の百分の六十 をこえないもの
三一五	五 葉子	五 ぶどう糖、麦芽糖及びあめ はちみつ
三一六	六 ジヤム、フルーツゼリー類	六 ピスクット (砂糖を加えたものを除く。)
三一七	七 マカロニー、パームセリーナーその他各種のめん類	七 果じゅう及び糖水
三一八	八 その他	八 果じゅう (砂糖を加えたものに限る。) 及び糖水
三一九	ソース	九 その他
三二〇	食酢	十 鳥獸肉類
三二一	一一 一生のもの	一一 かん詰、びん詰又はつば詰のもの
三二二	一二 ハム、ベーコン及びソーセージ	一二 その他
三二三	一 塩鯨	二 塩魚
三二四	二 魚介類	三 塩魚及び乾魚 (單に蒸し、又は焼いたものを含む。)
三二五	四 甲 いわしの油漬	四 その他
三二六	五 乙 その他	五 バター、人造バター及びギー
三二七	一 チーズ	六 ユンデンスミルク (粉乳を含む。)
三二八	二 インファントフード	七 内エキス
三二九	三 ベブトン、スマートゼ、モグロビンその他のこれらに類する	八 ペブトン、ソマトーゼ、モグロビンその他のこれらに類する
三三〇	四 ニンニク	九 内エキス
三三一	五 ニンニク	十 ベブトン
三三二	六 ニンニク	一一 その他
三三三	七 ニンニク	一二 生の鳥卵 (ふ化用のものを含む。)
三三四	八 ニンニク	一 二 生の鳥卵 (ふ化用のものを含む。)
三三五	九 ニンニク	二 二 卵白粉
三三六	一〇 ニンニク	三 三 その他
三三七	一一 ニンニク	四 アルコールを含まない飲料のもと (固形、でい状又は液状のもとに限るものとし、砂糖を含むもの及び別号に掲げるものを除く。)
三三八	一二 ニンニク	五 鉱水、ソーダ水その他の砂糖又はアルコールを含まない飲料
三三九	一三 ニンニク	六 清酒 (合成清酒を含む。)
三三一〇	一四 ニンニク	七 ビール
三三一一	一五 ニンニク	八 ぶどう酒 (ポート、シェリー、ベルモット、マデーラ、マルサラ、サンラフエエル等を含む。) アルコール分が二十四度をこえないもの
三三一二	一六 ニンニク	九 シャンパンその他のスペーカリングワイン
三三一三	一七 ニンニク	一〇 酒類 (別号に掲げるものを除く。)
三三一四	一八 ニンニク	一一 飲食物 (別号に掲げるものを除く。)
三三一五	一九 ニンニク	一二 一 砂糖を加えたもの
三三一六	二〇 ニンニク	二 二 その他
三三一七	二一 ニンニク	三 たばこ
三三一八	二二 ニンニク	四 飲食物 (別号に掲げるものを除く。)
三三一九	二三 ニンニク	五 一 砂糖を加えたもの
三三二〇	二四 ニンニク	六 二 その他
三三二一	二五 ニンニク	七 飲食物 (別号に掲げるものを除く。)
三三二二	二六 ニンニク	八 一 砂糖を加えたもの
三三二三	二七 ニンニク	九 二 その他
三三二四	二八 ニンニク	一〇 一 砂糖を加えたもの
三三二五	二九 ニンニク	一一 二 その他
三三二六	二一〇 ニンニク	一二 一 砂糖を加えたもの
三三二七	二一一 ニンニク	一二 二 その他
三三二八	二一二 ニンニク	一二 三 その他
三三二九	二一三 ニンニク	一二 四 その他
三三三〇	二一四 ニンニク	一二 五 その他
三三三一	二一五 ニンニク	一二 六 その他
三三三二	二一六 ニンニク	一二 七 その他
三三三三	二一七 ニンニク	一二 八 その他
三三三四	二一八 ニンニク	一二 九 その他
三三三五	二一九 ニンニク	一二 一〇 その他
三三三六	二二〇 ニンニク	一二 一一 その他
三三三七	二二一 ニンニク	一二 一二 その他
三三三八	二二二 ニンニク	一二 一三 その他
三三三九	二二三 ニンニク	一二 一四 その他
三三三一〇	二二四 ニンニク	一二 一五 その他
三三三一一	二二五 ニンニク	一二 一六 その他
三三三一二	二二六 ニンニク	一二 一七 その他
三三三一三	二二七 ニンニク	一二 一八 その他
三三三一四	二二八 ニンニク	一二 一九 その他
三三三一五	二二九 ニンニク	一二 二〇 その他
三三三一六	二二一〇 ニンニク	一二 二一 その他
三三三一七	二二一一 ニンニク	一二 二二 その他
三三三一八	二二一二 ニンニク	一二 二三 その他
三三三一九	二二一三 ニンニク	一二 二四 その他
三三三二〇	二二一四 ニンニク	一二 二五 その他
三三三二一	二二一五 ニンニク	一二 二六 その他
三三三二二	二二一六 ニンニク	一二 二七 その他
三三三二三	二二一七 ニンニク	一二 二八 その他
三三三二四	二二一八 ニンニク	一二 二九 その他
三三三二五	二二一九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二六	二二二〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二七	二二二一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二八	二二二二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二九	二二二三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一〇	二二二四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一	二二二五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一二	二二二六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一三	二二二七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一四	二二二八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一五	二二二九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一六	二二二一〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一七	二二二一一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一八	二二二一二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一九	二二二一三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一〇	二二二一四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一	二二二一五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一二	二二二一六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一三	二二二一七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一四	二二二一八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一五	二二二一九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一六	二二二二〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一七	二二二二一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一八	二二二二二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一九	二二二二三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一〇	二二二二四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一	二二二二五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一二	二二二二六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一三	二二二二七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一四	二二二二八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一五	二二二二九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一六	二二二二一〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一七	二二二二一一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一八	二二二二一二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一九	二二二二一三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一一〇	二二二二一四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一一	二二二二一五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一一二	二二二二一六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一一三	二二二二一七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一一四	二二二二一八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一一五	二二二二一九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一一六	二二二二二〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一一七	二二二二二一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一一八	二二二二二二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一一九	二二二二二三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一一一〇	二二二二二四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一一一	二二二二二五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一一一二	二二二二二六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一一一三	二二二二二七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一一一四	二二二二二八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一一一五	二二二二二九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一一一六	二二二二二一〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一一一七	二二二二二一一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一一一八	二二二二二一二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一一一九	二二二二二一三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一一一一〇	二二二二二一四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一一一一	二二二二二一五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一一一一二	二二二二二一六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一一一一三	二二二二二一七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一一一一四	二二二二二一八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一一一一五	二二二二二一九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一一一一六	二二二二二二〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一一一一七	二二二二二二一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一一一一八	二二二二二二二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一一一一九	二二二二二二三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一一一一一〇	二二二二二二四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一一一一一	二二二二二二五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一一一一一二	二二二二二二六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一一一一一三	二二二二二二七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一一一一一四	二二二二二二八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一一一一一五	二二二二二二九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一一一一一六	二二二二二二一〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一一一一一七	二二二二二二一一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一一一一一八	二二二二二二一二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一一一一一九	二二二二二二一三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一一一一一一〇	二二二二二二一四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一一一一一一	二二二二二二一五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一一一一一一二	二二二二二二一六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一一一一一一三	二二二二二二一七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一一一一一一四	二二二二二二一八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一一一一一一五	二二二二二二一九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一一一一一一六	二二二二二二二〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一一一一一一七	二二二二二二二一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一一一一一一八	二二二二二二二二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一一一一一一九	二二二二二二二三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一一一一一一一〇	二二二二二二二四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一一一一一一一	二二二二二二二五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一一一一一一一二	二二二二二二二六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一一一一一一一三	二二二二二二二七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一一一一一一一四	二二二二二二二八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一一一一一一一五	二二二二二二二九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一一一一一一一六	二二二二二二二一〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一一一一一一一七	二二二二二二二一一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一一一一一一一八	二二二二二二二一二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一一一一一一一九	二二二二二二二一三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一一一一一一一一〇	二二二二二二二一四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一一一一一一一一	二二二二二二二一五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一一一一一一一一二	二二二二二二二一六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一一一一一一一一三	二二二二二二二一七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一一一一一一一一四	二二二二二二二一八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一一一一一一一一五	二二二二二二二一九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一一一一一一一一六	二二二二二二二二〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一一一一一一一一七	二二二二二二二二一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一一一一一一一一八	二二二二二二二二二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一一一一一一一一九	二二二二二二二二三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一一一一一一一一一〇	二二二二二二二二四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一	二二二二二二二二五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一一一一一一一一一二	二二二二二二二二六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一一一一一一一一一三	二二二二二二二二七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一一一一一一一一一四	二二二二二二二二八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一一一一一一一一一五	二二二二二二二二九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一一一一一一一一一六	二二二二二二二二一〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一一一一一一一一一七	二二二二二二二二一一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一一一一一一一一一八	二二二二二二二二一二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一一一一一一一一一九	二二二二二二二二一三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一〇	二二二二二二二二一四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一	二二二二二二二二一五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一二	二二二二二二二二一六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一三	二二二二二二二二一七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一四	二二二二二二二二一八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一五	二二二二二二二二一九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一六	二二二二二二二二一一〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一七	二二二二二二二二一一一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一八	二二二二二二二二一一二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一九	二二二二二二二二一一三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一〇	二二二二二二二二一一四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一一	二二二二二二二二一一五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一二	二二二二二二二二一一六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一三	二二二二二二二二一一七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一四	二二二二二二二二一一八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一五	二二二二二二二二一一九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一六	二二二二二二二二一一一〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一七	二二二二二二二二一一一一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一八	二二二二二二二二一一一二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一九	二二二二二二二二一一一三 ニンニク	一二 二一四 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一一〇	二二二二二二二二一一一四 ニンニク	一二 二一五 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一一一	二二二二二二二二一一一五 ニンニク	一二 二一六 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一一二	二二二二二二二二一一一六 ニンニク	一二 二一七 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一一三	二二二二二二二二一一一七 ニンニク	一二 二一八 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一一四	二二二二二二二二一一一八 ニンニク	一二 二一九 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一一五	二二二二二二二二一一一九 ニンニク	一二 二一〇 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一一六	二二二二二二二二一一一一〇 ニンニク	一二 二一一 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一一七	二二二二二二二二一一一一一 ニンニク	一二 二一二 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一一八	二二二二二二二二一一一一二 ニンニク	一二 二一三 その他
三三三二一一一一一一一一一一一一一一		

六八一	酒精剤	一 フルーツエッセンス、リキュールエッセンスその他のいれらに類するもの 二 その他	二割五分
六八二	人造香料及び調合香料	一 齢みがき類 二 齢みがき類	三割五分
六八三	化粧品	一 香水 二 香油、クリーム、ボマード、ロ紅その他の油、脂又は蠟の製品 三 おしろい及びつめ化粧料 四 その他	二割五分
六八四	線香	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
六八五	第七類染料、顔料、塗料及び充てん料 天然藍、姜黃、紅花及びログウッドエキス 天然染料(別号に掲げるものを除く。) カラメル 合成染料	一 爆発薬(雷管及び導火線を含み、爆発の用途のみに供されるものに限る。) 二 銃砲弾(装薬したものに限る。) 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
六八六	六八七	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
六八八	六八九	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
六九〇	六九一	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
六九三	六九四	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
六九五	六九六	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
六九七	六九八	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
六九九	七〇〇	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七〇一	七〇二	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七〇三	七〇四	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七〇五	七〇六	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七〇七	七〇八	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七〇九	七一〇	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七一一	七一二	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七一三	七一四	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七一五	七一六	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七一七	七一八	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七一九	七二〇	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七二一	七二二	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七二三	七二四	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七二五	七二六	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七二七	七二八	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
七二九	七三〇	一 ブラスター、ガーゼ、脱脂綿その他のこれらに類する外科用材料 二 カプセル 三 オブレート 四 銃砲弾(装薬したものに限る。) 五 カーボン(装薬したものに限る。) 六 火花 七 葉材、化学薬、医薬及びこれらの調合品(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
乙 その他	七 油解染料	一 酸化コバルト(吳須を含む。) 二 金液、銀液及び白金液 三 青銅粉、アルミニウム粉その他のこれらに類する卑金属粉(別号に掲げるものを除く。)	二割五分
乙 その他	八 その他	一 鉛白、鉛丹及び一酸化鉛 二 亜鉛華及び硫化亜鉛 三 硫酸バリウム 四 リトボン 五 酸化チタン 六 白堊(炭酸石灰を含む。) 七 朱及び辰砂 八 鶴冠石、石黄、雌黄及びきりん血 九 カーボンブラック 十 レーキ顔料	二割五分
乙 その他	九 群青	一 木タール 二 コールタール、ピッチ、アスファルト及び道路修築用のこれら製品 三 くつ墨 四 インキ	二割五分
乙 その他	一 印刷用のもの	一 甲 液状又はい状のもの 二 甲の一 容器ともの一個の重量が十キログラムをこえるもの	二割五分
乙 その他	二 黒色のもの	一 甲 液状又はい状のもの 二 甲の一 容器ともの一個の重量が十キログラムをこえるもの	二割五分
乙 その他	三 口 その他	一 甲 液状又はい状のもの 二 甲の一 容器ともの一個の重量が十キログラムをこえるもの	二割五分
乙 その他	四 墨及び朱墨	一 甲 液状又はい状のもの 二 甲の一 容器ともの一個の重量が十キログラムをこえるもの	二割五分
乙 その他	五 白墨、クレヨン及びテラースチヨーク	一 甲 液状又はい状のもの 二 甲の一 容器ともの一個の重量が十キログラムをこえるもの	二割五分
乙 その他	六 アーチストカラー及びアーチストペイント	一 甲 液状又はい状のもの 二 甲の一 容器ともの一個の重量が十キログラムをこえるもの	二割五分
乙 その他	七 ワニス、バイロキシリソラッカー及び合成樹脂を含む塗料(別	一 甲 液状又はい状のもの 二 甲の一 容器ともの一個の重量が十キログラムをこえるもの	二割五分

七三〇	号に掲げるものを除く。)
七三一	ペイント バテ、マンガンバテその他のこれらに類する充てん料
七三二	封蠟
七三三	染料及び顔料(別号に掲げるものを除く。)
七三四	塗料(別号に掲げるものを除く。)
第八類 繊維素バルブ、繊維、糸及びなわ	1 この類に掲げる物品には、無機質纖維のみで作られているものを含まないものとする。
八〇一	2 この類において「綿」とは、天然綿をいう。
八〇二	3 この類に掲げる物品が二種以上の纖維で作られている場合において、全重量の百分の十をこえない纖維は、分類上交えないものとみなす。
八〇三	纖維素バルブ 美綿及び練綿(カード又はコードしたものを含む。)
八〇四	綿織糸(別号に掲げる特殊綿織糸を除く。) 一 薄然又は双撲の生のもの(ガス焼したものも含む。) 二 その他
八〇五	特殊綿織糸 一 ポイルヤーン、英式番手四十二番をこえるクレーブヤー ンその他の変り換糸
八〇六	二 單撲のミユールコット糸
八〇七	三 英式番手百番をこえるもの 綿糸(織糸を除く。)及び長さ十メートルの重量が三グラムをこえない綿線
八〇八	八〇六 亞麻、ちよ麻、ラミー、大麻、黃麻その他の植物纖維(別号に掲げるものを除く。) 亞麻織糸
八〇九	一 單撲の生のもの 二 その他
八一〇	八〇八 亞麻繩(英式番手七番をこえる單撲糸をよりあわせたもので、長さ十メートルの重量が十一グラムをこえないものに限る。)及び亞麻糸(織糸を除く。) ちよ麻繩糸及びラミー繩
一一一	八一〇 大麻織糸
一一二	黄麻織糸

八一三	大麻線及び黃麻線(英式番手七番をこえる單撲糸をよりあわせたもので、長さ十メートルの重量が十一グラムをこえないものに限る。)並びに大麻糸及び黃麻糸(織糸を除く。) 羊毛、やき毛及びらくだ毛(カード又はコードしたものを含む。)
八一四	毛織糸
八一五	毛織糸
八一六	繩
八一七	真綿及びペニー 生糸(よつたものを含む。)
八一八	一 野蚕糸 二 その他
八一九	紡績絹織糸
八二〇	一 野蚕製のもの 二 その他
八二一	絹糸(紡績絹織糸を除く。) 人造纖維(單纖維の長短を問わないものとし、よつたものを含み、長さ十メートルの重量が五グラムをこえないものに限る。)
八二二	一 合成纖維及び醋酸纖維素纖維 二 その他
八二三	繩糸(別号に掲げるものを除く。) 一 綿、人造纖維又は金属を交えたもの
八二四	二 その他
八二五	天然でぐす 糸(別号に掲げるものを除く。)
八二六	綿粉、毛粉、綿粉及び人造纖維粉
八二七	くず纖維、古纖維、くず織糸及びくず糸
八二八	練、ひも、なわ及び綱(別号に掲げるものを除く。) 一 合成纖維又は醋酸纖維素纖維で作ったもの
八二九	二 その他
七分五厘	古線、古ひも、古なわ及び古綱(トリミングを除く。)
七分五厘	第九類 織物類及びその製品
七分五厘	1 この類において織物類には、フェルト及び編物を含むものとする。 2 この類に掲げる物品には、無機質纖維のみで作られているものを含まないものとする。
七分五厘	3 この類において「綿」とは、天然綿をいう。
七分五厘	4 この類に掲げる物品が二種以上の纖維で作られている場合において、全重量の百分の十をこえない纖維は、分類上交えないものとみなす。但し、合

成纖維又は醋酸纖維素纖維及びこれららの纖維以外の纖維で作られている織物(レース地及び網地を含む。)については、合成纖維又は醋酸纖維素纖維が全重量の百分の五十をこえる場合又は絹糸のうちいすれか一方がこれららの纖維である場合においては、他の纖維は、交えないものとみなす。

5 この類において「紋織物」とは、絹織それぞれ三十をこえる糸で一意匠を組織した織物をいう。この場合において、糸数の計算については、二以上の一組糸をよりあわせた糸又は引き揃えた糸は、一として計算する。

亞麻、ちよ麻、ラミー、大麻又は黄麻の織物及びこれらの纖維の交織物並びにこれらの纖維と綿との交織物

一 編織物
二 平織布、紋織布及び繡織布

甲 黄麻織物
乙 綿と交織のもの
丙 その他

三 その他

四 織物(綿、絹又は人造纖維を交えたものを含む。)

五 バイナップル、マニラヘンプ、アゲーブその他の植物纖維(綿、亞麻、ちよ麻、ラミー、大麻及び黄麻を除く。)の織物及びこれららの纖維の交織物

六 織物(馬毛製のもの及び馬毛を交えたものに限る。)

七 甲 毛製又は毛綿製のもの
乙 その他

八 芯地(馬毛製のもの及び馬毛を交えたものに限る。)

九 一 ベルベット、プラッシュ等その他のバイル織物(バイルを切らないものを含む。)

二 その他

三 その他

四 合成纖維及び醋酸纖維素纖維の織物並びにこれらの纖維の交織物(レース地及び網地を含む。)

五 その他

六 メリヤス地その他のこれに類する織物(起毛したものと含む。)

七 編製のもの及び絹を交えたもの

九〇八
九〇九
九〇七
九〇六
九〇五
九〇四
九〇三
九〇二
九〇一
九〇〇

一割
二割
三割
四割
五割
六割
七割
八割
九割

九一〇
九一一
九一二
九一三
九一四
九一五
九一六
九一七
九一八
九一九
九二〇
九二一
九二二
九二三
九二四
九二五
九二六
九二七
九二八
九二九
九三〇
九三一

二 その他
レース地及び網地(別号に掲げるものを除く。)
一 カーテン地及び蚊帳地

甲 編製のもの
乙 その他

二 魚網地及び漁網地
三 その他

一 毛製又は毛綿製のもの
二 その他
ししゅう布地

一 ブックバイインダークロース
二 トレーシングクロース
三 アーチストカンバス
四 ウィンドーホランド
五 エンバイアクロース
六 タードカンバス
七 床用油布及びリノリウム
八 ルーフィングカンバス
九 研磨布(金剛砂等の研磨材を附着させたものに限る。)
十 防水布(ゴムを用いたものに限る。)及びレザークロース
十一 絹製のもの及び絹を交えたもの
十二 その他

一 ゴム糸類を用いた布及びひも
二 絹を交えたもの

一 ゴム糸類を用いた布及びひも
二 絹を交えたもの

一 インシュレー・チングテープ(織物類を用いたものに限る。)
二 タイプライターリボン
三 ハンカチ

一 編製のもの
二 その他
タオル
ブランケット
ひざ掛け
じゆうたん(じゆうたん地を含む。)
テーブルクロース

一 亞麻製、綿亞麻製又は編製のもの、絹を交えたもの、金属糸を用いたもの及びししゅうしたもの

一割
二割
三割
四割
五割
六割
七割
八割
九割

一〇一七

衣類、衣類の附属品及びその部分品（別号に掲げるものを除く。）

一 毛皮製若しくは毛皮付のもの又は貴金属、貴金属をめつきした金属、貴石、半貴石、真珠、さんご、象け若しくはべつ甲を用いたもの

二 その他

甲 ししいゅうしたるもの

乙 その他

第十一類 紙、紙製品、書籍及び書画

印刷用紙

一〇一

アートペーパー

二 その他（一平方メートルの重量が三十グラムをこえ、三

百グラムをこえないものに限る。）

甲 一平方メートルの重量が五十八グラムをこえないもの（碎木バルブを含むもので巻取のものに限る。）

乙 その他

筆記用紙

図画用紙

吸取紙

ろ紙

包装用紙及びマツチ用紙（一平方メートルの重量が三十グラムをこえ、三百グラムをこえないものに限る。）

たばこ用紙

壁紙

板紙（一平方メートルの重量が三百グラムをこえるものに限る。）

唐紙

チッショベーバー（一平方メートルの重量が三十グラムをこえるもの及び別号に掲げるものを除く。）

模造羊皮紙、バラフィンペーパー及びワックスベーバー

一 金属の箔若しくは粉を用いたもの、押形を付けたもの

はなつ染したもの

二 その他

トレーシングペーパー

リソトランスマーケーバー

油紙

窓ガラス用グラスペーパー
紙（別号に掲げるものを除く。）

一 金属の箔又は粉を用いたもの

甲 貵金属を用いたもの

乙 その他

ペーパーレース及びペーパーボーダー

白紙帳簿

書式類

書状用紙（箱入のものに限る。）

封筒（書状用紙とともに箱入にしたものを持む。）

アルバム

一 革又は織物類で表装したもの

二 その他

試験紙

軍真用、ライタペーパー及び鶴卵紙

印画紙（感光性のものに限る。）

カーボンペーパー

研磨紙（金剛砂等の研磨材料を附着させたものに限る。）

ウォールボード

レーベル

ブレイイングカード

写真

書画

一 印刷したもの

二 その他

カレンダー

クリスマスカード類

絵葉書

書籍、習字本、習画本、楽譜、新聞、雑誌その他の印刷物（別号に掲げるものを除く。）

設計図

地図、海図及び学術図

紙幣、銀行券、利札、株券その他の有価証券

くず紙

紙製品（別号に掲げるものを除く。）

第十二類 鉱物及びその製品

珪砂、クオルツサンドその他の砂れき（別号に掲げるものを除く。）

フリント

四割

三割

二割

三割

一割

二割

一割

三割

一割

二割

一割

三割

一割

二割

一割

三割

二割

一割

二割

三割

四割

一五一二 絶縁電線	二割
一五一三 魚用鉛	一割五分
一五一四 いかり(鉄鋼製のものに限る。)	一割五分
一五一五 くさり(別号に掲げるものを除く。)	一割五分
一五一六 貴金属を用いたもの又は貴金属をめつきしたもの	五割
一五一七 機械用チエーンペルチング	一割五分
一五一八 懷中時計用くさり、眼鏡用くさりその他身辺装飾用のくさり	一割五分
一五一九 金製若しくは白金製のもの又は金めつきしたもの	二割
一五二〇 機械用チエーンペルチング	一割五分
一五二一 懐中時計用くさり(貴金属を用いたもの又は貴金属をめつきしたもの)を除く。	一割五分
一五二二 貴金属をめつきしたもののを除く。	一割五分
一五二三 貴金属をめつきしたもののを除く。	一割五分
一五二四 貴金属、貴金属をめつきした金属、貴石、半貴石、真珠、真珠具、象げ又はべつ甲を用いたもの	一割五分
一五二五 その他	一割五分
一五二六 かみそり及びかみそりの刃(刃の付いてない安全かみそりを含む。)	二割
一五二七 スクリュージャッキ	二割
一五二八 刃口用キャップ	二割
一五二九 クラウンボットルキャップ	二割
一五三〇 コルクスクリュ	二割
一五三一 縫針、編針、留針類(身辺装飾用のものを除く。)	二割
一五三二 カートリッジケース	二割
一五三三 メリヤス機用針	二割
一五三四 呼鈴及び車用警鈴	二割
一五三五 自転車用ポンプ	二割
一五三六 肉ひき器	二割
一五三七 コーヒーフィルター	二割
一五三八 アイスクリームフリーザー	二割
一五三九 ストーブ及びその部分品(別号に掲げるものを除く。)	二割
一五四〇 電気ストーブ、電気アイロンその他のこれらに類する電熱を利用する器具(工芸用のものを除く。)	二割
一五四一 ラジエーター(機械用のものを除く。)	二割
一五四二 寝台及びその部分品	二割
一五四三 金庫(手さげ金庫類を含む。)	二割
一 ナンバーリングマシン、デーチングマシン、チェックペーパーレーダー、ベンツルシャープナーその他これらに類するもの及びこれらのものの部分品	一割五分
二 機械用鋸(BWG二十二番より厚いハックソーブレード)	一割五分
三 で機械用以外の用途に使用するものを含み、これより薄	一割五分

一五四五	貴金属製品及び貴金属を用い、又は貴金属をめつきした金属製品(別号に掲げるものを除く。)	一割五分
一五四六	銅製品、真ちゅう製品及び青銅製品(別号に掲げるものを除く。)	一割五分
一五四七	アルミニウム製品(別号に掲げるものを除く。)	一割五分
一五四八	金屬製品別号に掲げるものを除く。)	一割五分
一五六一	鐵鋼製品(別号に掲げるものを除く。)	一割五分
一五六〇	懷中時計及び腕時計(ストップウォッチ等の秒時計を含む。)の部	一割五分
一五六一	懷中時計及び腕時計(ストップウォッチ等の秒時計を含む。)	一割五分
一五六二	一 その他	一割五分
一五六三	懷中時計及び腕時計(ストップウォッチ等の秒時計を含む。)の部	一割五分
一五六四	一 金製又は白金製のもの	一割五分
一五六五	二 銀製のもの又は金めつきしたもの	一割五分
一五六六	三 その他	一割五分
一五六七	甲 ムーブメント(文字板及び指針を付けたものを含む。)	一割五分
一五六八	乙 ばね及びひげばね	一割五分
一五六九	丙 その他	一割五分
一五六一〇	置時計及び掛時計	一割五分
一五六一一	電気時計(親時計及び子時計を含む。)	一割五分
一五六一二	ウォッチマンクロックその他の時刻を記録する時計	一割五分
一五六一三	置時計 挂時計、電気時計、タワークロック及びウォッチマン	一割五分
一五六一四	クロックその他の時刻を記録する時計の部分品	一割五分
一五六一五	一 大〇七 クロノメーターや及びその部分品(懷中用のものを除く。)	一割五分
一五六一六	一 大〇八 鉛盤及びその部分品	一割五分
一五六一七	一 大〇九 双眼鏡及び隻眼鏡	一割五分
一五六一八	一 貴金属、貴金属をめつきした金属、貴石、半貴石、真珠、さんご、象げ、べつ甲又は貝がらを用いたもの	一割五分
一五六一九	二 その他	一割五分
一五六二〇	望遠鏡	一割五分
一五六二一	顯微鏡及びその部分品	一割五分
一五六二二	直尺、曲尺、巻尺、分度器、ワイヤゲージ、スクリューピッチゲージ、シックネスゲージ、マイクロメーター、キャリバー、デイベイダー、レベルその他これらに類するものはかり(錐の無いものを含む。)	一割五分
一五六二三	甲 映画用のもの	一割五分
一五六二四	二 顯微鏡用のもの及び航空機用のもの	一割五分
一五六二五	三 その他	一割五分
一五六二六	写真機の部分品	一割五分
一五六二七	甲 映画用のもの	一割五分
一五六二八	二 噪箱	一割五分
一五六二九	乙 顯微鏡用のもの及び航空機用のもの	一割五分
一五六三〇	丙 その他	一割五分

一六五〇	ボイラーの部分品及び附屬品（別号に掲げるものを除く。）	一割五分
一六五一	メカニカルストーカー	一割五分
一六五二	フューエルエコノマイザー	一割五分
一六五三	フィードウォーターヒーター	一割五分
一六五四	インゼクター及びエゼクター	一割五分
一六五五	蒸氣機関車（鉄道機関車以外のものに限る。）及びボータブルスチームエンジン	一割五分
一六五六	蒸氣タービン及びその部分品	一割五分
一六五七	蒸氣機関（別号に掲げるものを除く。）	一割五分
一六五八	内燃機関	一割五分
一六五九	一 自動車用又は自転車用のもの	一割五分
一六六〇	二 その他 ウオータータービン及びベルトン水車	一割五分
一六六一	一 原動機と発電機とを結合したもの	一割五分
一六六二	一 蒸氣タービンと結合したもの	一割五分
一六六三	二 その他 原動機（別号に掲げるものを除く。）	一割五分
一六六四	一 ブロック及びチーンブロック	一割五分
一六六五	一 クレーン	一割五分
一六六六	一 キャブスタン、ワインチ、ウインドラスその他これらに類するもの（別号に掲げるものを除く。）	一割五分
一六六七	一 ロードローラー	一割五分
一六六八	一 コンクリートミキサー	一割五分
一六六九	一 しゅんせつ機	一割五分
一六七〇	一 パワーハンマー	一割五分
一六七一	一 気体圧縮機	一割五分
一六七二	一 ミシン（ミシンの頭部を含む。）	一割五分
一六七三	一 ミシンの部分品及び附屬品（針を除く。）	一割五分
一六七四	一 潜水器及びその部分品	一割五分
一六七五	一 ポンプ（別号に掲げるものを除く。）	一割五分
一六七六	一 送風機（扇風機を含む。）	一割五分
一六七七	一 水圧機	一割五分
一六七八	一 ニューマチックツール及びニューマエックマシン（別号に掲げるものを除く。）	一割五分
一六七九	一 金属工機械及び木工機械（ローリングマシン、ドローリングマ	一割五分

一七一八	白金、ワナジウム、鉄又はこの化合物を含む触媒												
一七一九	製帽用さなど												
一七二〇	むしろ(植物性材料で作ったものに限るものとし、織物類に用いる纖維で作ったものを除く。)												
一	包装用のもの												
二	その他												
一七二一	麦わら、わら、パナマストロー、やしの葉、いぐさ、葦、竹、藤、蔓その他これらに類するものの製品(別号に掲げるものを除く。)												
一七二二	一 あんペラ袋 二 その他												
一七二三	かさの柄、つえ、むち及びこれらに限り 一 貴金属、貴金属をめつきした金属、貴石、半貴石、真珠、さんご、象げ又はべつ甲を用いたもの 二 その他												
一七二四	かさ 一 絹製又は絹入のもの 二 その他												
一七二五	木製品(別号に掲げるものを除く。)												
一七二六	一 貴金属、貴金属をめつきした金属、貴石、半貴石、真珠、さんご、象げ又はべつ甲を用いたもの 二 その他												
一七二七	甲 かりん、つけ、たがやさん、紅木、紫檀及び黒檀の製品 乙 その他												
一七二八	タードフェルト、タードベーバーその他これらに類するもの(屋根、船底等に用いるものでタール、アスファルト、樹脂等を施したものに限る。)												
一七二九	ボイラーフェルト												
一七二七	ゴム製品(ガタバー、チャップを含み、別号に掲げるものを除く。) 一 インディアラバーリー液、インディアラバーペーストその他 のバルカニゼーションを施さないインディアラバー												
一七二八	二 デンタルラバー 三 その他												
一七二九	くず又は古のゴム(ガタバー、チャップを含み、改進用のみに適するものに限る。)												
一七三〇	セルロイド及びその製品(別号に掲げるものを除く。)												
		無税	五分	無税	一分	無税	二割	無税	一割	無税	一割	無税	一割

一七三一	くず又は古のセルロイド(改造用のみに適するものに限る。)												
一七三二	ガラリス及びその製品(別号に掲げるものを除く。)												
一七三三	合成樹脂及びその製品(くずを含み、別号に掲げるものを除く。)												
一七三四	プラスチック及びホウキ												
一	貴金属、貴金属をめつきした金属、象げ又はべつ甲を用いたもの												
二	いたもの												
一七三五	二 その他												
一七三六	ランプその他の照明具及びその部分品(別号に掲げるものを除く。) 一 安全燈、船燈、白熱電球、ソケット、シェードホール ダーモ及びガスマントル												
一七三七	二 医療用ランプ 三 その他												
一七三八	写真用フィルム(現象したもの)を含む。 一 レントゲン線用のもの												
一七三九	二 その他												
一七四〇	ゼラチンペーパー												
一七四一	一 花(模造の葉、果実等)を含む。 二 化粧具箱 万年筆(ボールペンを含む。)、練出鉛筆、鉛筆、ペン及びこれらの部分品												
	ゼラチンペーパー												
	一 軸又はキャップに貴金属、貴金属をめつきした金属、貴石、半貴石、真珠、さんご、象げ又はべつ甲を用いたもの												
	二 その他												
	甲 万年筆及び練出鉛筆												
	乙 鉛筆及び鉛筆の芯												
	丙 その他												
	イ ベン先												
	イの一 金製のもの												
	イの二 その他												
	ロ その他												
	野球用具、庭球用具、卓球用具、ビリヤード用具、チェス用具その他の運動用具及び遊戯用具並びにこれらの部分品及び附属品(ブレイティングカードを除く。)												
	一 野球用具、庭球用具その他の戸外運動用具並びにその部分品及び附属品												
	二 その他												
	二割												
	三割												

一七四二	玩具	四割
一七四三	ひな形	
一七四五	飼料	
一七四五	ひな形	
一七四六	米ぬか	
一七四七	油かす、食用に適しない乾魚、骨粉、血粉、グアノ、過磷酸石 灰、石灰窓素その他の肥料(別号に掲げるものを除く。)	
一七四八	変性糖みつ	
一七四九	別号に掲げない物品	
一	未製品	無税
二	その他	無税
甲	貴金属、貴金属をめつきした金属、貴石、半貴石、真珠、きんじゅ、象げ又はべつ甲を用いたもの	無税
乙	その他	無税
五分		五分
五割		五割

附則

この法律は、昭和二十六年四月一日から施行する。
左に掲げる法律は、廃止する。

1 賽賛品等の輸入税に関する法律(大正十三年法律第二十四号)

2 輸入税の従量税率に関する法律(昭和七年法律第四号)

3 改正前の関税定率法第九條第二項の規定は、この法律施行前に同項の規定により輸入税の全部又は一部の免除を受けた物品については、この法律施行後も、一年間、なおその効力を有する。

4 関税定率法 別表輸入税表番号第七百五号「合成染料」の項中第六項「建染染料」乙 その他の税率は、当分の間、同表の税率にかかわらず、一割五分とする。

5 鉄の輸入税免除に関する法律(昭和十六年法律第八十七号)の一部を次のように改正する。

第一項中「第四百六十二号ニ掲タル特殊鋼(別号ニ掲タル特殊鋼ヲ除ク)」を「第四百五号ニ掲タル特殊鋼(別号に掲げる特殊鋼を除く。)」に改める。

6 貴金属管理法(昭和二十五年法律第百二十八号)の一部を次のように改正する。
別表を次のように改める。

番号	品名	関税定率法別表輸入税表
五〇一	植物性揮発油	免税される物品
乙	その他	バイソン油

六九五	薬材、化学薬、医薬及びその調合品(別号に掲げるものを除く。)	青化石灰及び浮遊還鉱剤
一四〇六	特殊鋼	ドリルスチール
一六六六	キャブスタン、ワインチ、ワインドラスその他これらに類するもの(別号に掲げるものを除く。)	スラッシャーホイスト
一六七八	ニューマチックツール及びニューマチックマシン(別号に掲げるものを除く。)	ドリフター
一六八六	機械(別号に掲げるものを除く。)	試験機、物理探鉱機、エヤーストウイングマシン、選鉱用機械及び青化製鍊用機械
7	つむぎ等の輸入税を免除する法律(昭和二十五年法律第百九十二号)の一部を次のように改正する。	つむぎ等の輸入税を免除する法律(昭和二十五年法律第百九十二号)の一部を次のように改正する。

別表

番号	品名	関税定率法別表輸入税表	免税される物品
九〇六	絹織物及び絹を交えた織物(別号に掲げるものを除く。)	上布(織幅が三十一センチメートルをこえ四十センチメートルをこえない平織のものでかすり又はしま柄のものに限る。)	つむぎ(織幅が三十一センチメートルをこえ四十センチメートルをこえない天然絹製のもので、且つ、かすり染の糸を使用した平織のものに限る。)
三	その他		

別表

資金運用部資金法案

第一條 この法律は、郵便貯金(郵便
振替貯金を含む。以下同じ。)米国

(資金運用部預託金)

又は他の法律若しくは政令の規定により資金運用部に預託された資金(以下「資金運用部預託金」という。)の契約上の預託期間(以下「本條中「約定期間」という。)は、二月を下らないものとする。

(資金運用部への預託の義務)
第二條 郵便貯金として受け入れた
資金は、郵便貯金の日常の拂いもど
しに必要な資金を除く外、資金運
用部に預託しなければならない。
政府の特別会計（資金運用部特
別会計を除く。）の歳入歳出の決算
上の剩余金を積み立てた積立金

は、すべて資金運用部に預託しなければならない。但し、簡易生命保険及郵便年金特別会計の積立金を

簡易生命保険法（昭和二十四年法律第六十
八号）の規定に基き保険契約者に貸し付ける場合及び郵便年金法（昭和二十四年法律第六十九号）の規定に基き年金契約者が年金受取人又は年金継続受取人に貸し付ける場合においては、この限りでない。

一 約定期間一年以上三年未満のもの 年三分五厘

二 約定期間二年以上五年未満のもの 年四分五厘

三 約定期間五年以上のもの 年五分

四 約定期間五年以上のもの 年五分五厘

年五分五厘

約定期間 一年以上三年未満の
年四分五厘

3 資金運用部預託金には、左の利率により利子を附する。

（国庫余裕金及び特別会計の余裕金の運用）

第三條 国庫余裕金は、資金運用部
に預託することができる。

2 政府の特別会計（米国対日援助）

見返資金特別会計及び資金運用部
特別会計の余額)の余裕金は、資

4 第二項の規定により約定期間満了前に拂いもどしを行つた金額に

対しては、その金額の預託されたいた期間が三月未満のときは利子を附さず、三月以上のときは、前項の規定にかかわらず、その期間に応じ左の利率により利子を附する。

一 預託されていた期間が三月以

上一年未満のとき 年三分

二 預託されていた期間が一年以

上三年未満のとき 年四分

三 預託されていた期間が三年以

上のとき 年四分五厘

四 資金運用部資金運用審議会の設置

（資金運用部資金運用審議会の設置）

第五條 資金運用部資金の運用を適正にするため、総理府の附屬機関として資金運用部資金運用審議会の設置

（以下「審議会」という。）を置く。

第六條 審議会は、大蔵大臣の諮問に応じ、資金運用部資金の運用の方針及び條件その他の資金運用部

資金の運用に関する重要な事項を調査審議する。

第七條 審議会は、資金運用部資金の運用に関する意見を述べることができる。

（審議会の組織）

第八條 審議会は、内閣総理大臣、

大蔵大臣、郵政大臣及び委員十人以内で組織する。

第九條 審議会の委員は、左に掲げる者をもつて充てる。

一 地方財政委員会委員長

二 大蔵事務次官

三 厚生事務次官

四 郵政事務次官

五 経済安定本部副長官

六 会計検査院事務総局次長

七 日本銀行総裁

八 学識又は経験のある者三人以内

率、担保、償還の方法、期限その他の條件において、資金運用部以外の者の引受、応募又は買入に係るものとその種類を同じくするものでなければならない。

（資金運用部資金の運用）
第七條 資金運用部資金は、左に掲げるものに運用することができます。
一 國債
二 法律の定めるところにより、予算について国会の議決を経、又は承認を得なければならぬ、

一 國に對する貸付
二 法人の発行する債券
三 法人の規定する法人に対する貸付

他の條件において、資金運用部以外の者の引受、応募又は買入に係るものとその種類を同じくするものでなければならない。

4 審議会の委員は、非常勤とする。
(審議会の会長及び副会長)

第十一條 内閣総理大臣は、審議会の会長として、会務を総理する。

2 大蔵大臣及び郵政大臣は、審議会の副会長として、会長を補佐し、会長に事故があるときは、会長の指名する副会長が会長の職務を行う。

3 この法律は、昭和二十六年四月一日から施行する。

2 預金部預金法（大正十四年法律第二十五号）は、廃止する。

3 この法律施行の際大蔵省預金部に属する資産及び負債は、資金運用部に帰属するものとする。

4 前項の規定により資金運用部に帰属した負債のうち旧臨時資金調整法（昭和十二年法律第八十六号）第十條ノ四第一項及び第十條ノ五第一項に規定する証券並びに同法第十三條第一項に規定する貯蓄債券及び報国債券の発行による收入金並びにこれらの証券の買入償却益及び支拂未済の元本又は割増金（以下「債券収入金等」という。）で、臨時資金調整法の廃止に伴う措置に関する法律（昭和二十三年法律第二十一号）第四項の規定により日本勵業銀行から大蔵省預金部に預入されていた資金は、同項の規定にかかわらず、この法律施行の日にその全額を拂いもどすものとする。

5 日本勵業銀行は、前項の規定により拂いもどしを受けた債券取入金等の資金及び同銀行がこの法律施行前に臨時資金調整法の廃止に伴う措置に関する法律第四項の規定により拂いもどしを受けた債券

（資金運用部資金の運用に関する事務の委任）

第十六條 大蔵大臣は、大蔵省令で定めるところにより、資金運用部資金の運用に関する事務の一部を日本銀行に取り扱わせることができる。

6 審議会の委員は、非常勤とする。
(審議会の会長及び副会長)

第十一條 内閣総理大臣は、審議会の会長として、会務を総理する。

2 大蔵大臣及び郵政大臣は、審議会の副会長として、会長を補佐し、会長に事故があるときは、会長の指名する副会長が会長の職務を行う。

3 この法律は、昭和二十六年四月一日から施行する。

2 預金部預金法（大正十四年法律第二十五号）は、廃止する。

3 この法律施行の際大蔵省預金部に属する資産及び負債は、資金運用部に帰属するものとする。

4 前項の規定により資金運用部に帰属した負債のうち旧臨時資金調整法（昭和十二年法律第八十六号）第十條ノ四第一項及び第十條ノ五第一項に規定する証券並びに同法第十三條第一項に規定する貯蓄債券及び報国債券の発行による收入金並びにこれらの証券の買入償却益及び支拂未済の元本又は割増金（以下「債券収入金等」という。）で、臨時資金調整法の廃止に伴う措置に関する法律（昭和二十三年法律第二十一号）第四項の規定により日本勵業銀行から大蔵省預金部に預入されていた資金は、同項の規定にかかわらず、この法律施行の日にその全額を拂いもどすものとする。

5 日本勵業銀行は、前項の規定により拂いもどしを受けた債券取入金等の資金及び同銀行がこの法律施行前に臨時資金調整法の廃止に伴う措置に関する法律第四項の規定により拂いもどしを受けた債券

了前に拂いもどしを行つた金額に對しては、その金額の預託されれたいた期間が三月未満のときは利子を附さず、三月以上のときは、前項の規定にかかわらず、その期間に応じ左の利率により利子を附する。

一 預託された期間が三月以上一年未満のとき 年三分

二 預託された期間が一年以上三年未満のとき 年四分

三 預託された期間が三年以上四年未満のとき 年四分五厘

四 資金運用部資金運用審議会の設置

（資金運用部資金運用審議会の設置）

第五條 資金運用部資金の運用を適正にするため、総理府の附屬機関として資金運用部資金運用審議会の設置

（以下「審議会」という。）を置く。

第六條 審議会は、大蔵大臣の諮問に応じ、資金運用部資金の運用の方針及び條件その他の資金運用部

資金の運用に関する重要な事項を調査審議する。

第七條 審議会は、資金運用部資金の運用に関する意見を述べることができる。

（審議会の組織）

第八條 審議会は、内閣総理大臣、

大蔵大臣、郵政大臣及び委員十人以内で組織する。

第九條 審議会の委員は、左に掲げる者をもつて充てる。

一 地方財政委員会委員長

二 大蔵事務次官

三 厚生事務次官

四 郵政事務次官

五 経済安定本部副長官

六 会計検査院事務総局次長

七 日本銀行総裁

八 学識又は経験のある者三人以内

三 資金運用部資金を金融債に運用する場合においては、一の金融機関の六割をこえる割合の金融債の引受け、応募又は買入を行つてはならない。又、資金運用部が引受け、応募又は買入を行つてはならない。

四 資金運用部資金は、他の政府資金と区分して経理するものとする。

五 資金運用部預託金並びに資金運用部特別会計の積立金及び余裕金は、資金運用部資金とし、大蔵大臣が管理及び運用する。

六 資金運用部預託金は、左に掲げる者

一 大蔵大臣が任命し、その任期は、二年とす。

了前に拂いもどしを行つた金額に對しては、その金額の預託されれたいた期間が三月未満のときは利子を附さず、三月以上のときは、前項の規定にかかわらず、その期間に応じ左の利率により利子を附する。

一 預託された期間が三月以上一年未満のとき 年三分

二 預託された期間が一年以上三年未満のとき 年四分

三 預託された期間が三年以上四年未満のとき 年四分五厘

四 資金運用部資金運用審議会の設置

（資金運用部資金運用審議会の設置）

第五條 資金運用部資金の運用を適正にするため、総理府の附屬機関として資金運用部資金運用審議会の設置

（以下「審議会」という。）を置く。

第六條 審議会は、大蔵大臣の諮問に応じ、資金運用部資金の運用の方針及び條件その他の資金運用部

資金の運用に関する重要な事項を調査審議する。

第七條 審議会は、資金運用部資金の運用に関する意見を述べることができる。

（審議会の組織）

第八條 審議会は、内閣総理大臣、

大蔵大臣、郵政大臣及び委員十人以内で組織する。

第九條 審議会の委員は、左に掲げる者をもつて充てる。

一 地方財政委員会委員長

二 大蔵事務次官

三 厚生事務次官

四 郵政事務次官

五 経済安定本部副長官

六 会計検査院事務総局次長

七 日本銀行総裁

八 学識又は経験のある者三人以内

三 資金運用部資金を金融債に運用する場合においては、一の金融機関の六割をこえる割合の金融債の引受け、応募又は買入を行つてはならない。又、資金運用部が引受け、応募又は買入を行つてはならない。

四 資金運用部資金は、他の政府資金と区分して経理するものとする。

五 資金運用部預託金並びに資金運用部特別会計の積立金及び余裕金は、資金運用部資金とし、大蔵大臣が管理及び運用する。

六 資金運用部預託金は、左に掲げる者

一 大蔵大臣が任命し、その任期は、二年とす。

了前に拂いもどしを行つた金額に對しては、その金額の預託されれたいた期間が三月未満のときは利子を附さず、三月以上のときは、前項の規定にかかわらず、その期間に応じ左の利率により利子を附する。

一 預託された期間が三月以上一年未満のとき 年三分

二 預託された期間が一年以上三年未満のとき 年四分

三 預託された期間が三年以上四年未満のとき 年四分五厘

四 資金運用部資金運用審議会の設置

（資金運用部資金運用審議会の設置）

第五條 資金運用部資金の運用を適正にするため、総理府の附屬機関として資金運用部資金運用審議会の設置

（以下「審議会」という。）を置く。

第六條 審議会は、大蔵大臣の諮問に応じ、資金運用部資金の運用の方針及び條件その他の資金運用部

資金の運用に関する重要な事項を調査審議する。

第七條 審議会は、資金運用部資金の運用に関する意見を述べることができる。

（審議会の組織）

第八條 審議会は、内閣総理大臣、

大蔵大臣、郵政大臣及び委員十人以内で組織する。

第九條 審議会の委員は、左に掲げる者をもつて充てる。

一 地方財政委員会委員長

二 大蔵事務次官

三 厚生事務次官

四 郵政事務次官

五 経済安定本部副長官

六 会計検査院事務総局次長

七 日本銀行総裁

八 学識又は経験のある者三人以内

三 資金運用部資金を金融債に運用する場合においては、一の金融機関の六割をこえる割合の金融債の引受け、応募又は買入を行つてはならない。又、資金運用部が引受け、応募又は買入を行つてはならない。

四 資金運用部資金は、他の政府資金と区分して経理するものとする。

五 資金運用部預託金並びに資金運用部特別会計の積立金及び余裕金は、資金運用部資金とし、大蔵大臣が管理及び運用する。

六 資金運用部預託金は、左に掲げる者

一 大蔵大臣が任命し、その任期は、二年とす。

の使用料を、毎月その月末までに、国に拂い込まなければならぬ。

第十八条の見出しを「費用及び使

用料の所属区分」に改め、同條第一

項中「それぞれ宿舎の貸與を受けた

者の報酬を支弁する会計」を「当該宿

舎の所屬する会計」に改め、同條第一

項中「特別会計」を「政令で定める

特別会計」に改める。

附則

1 この法律は、昭和二十六年四月一日から施行する。

2 宿舎を、所屬を異にする会計（郵政事業、電気通信事業その他事業を企業的に運営する政令で定める特別会計を除く。以下同じ。）の間において、所管換若しくは所属替をし、又は所属を異にする会計をして使用させることは、国有財産法（昭和二十三年法律第七十号）第十五条の規定にかかわらず、当分の間、当該会計間において無償として整理することができる。

3 同日予備審査のため、本委員会に左の事件を付託された。

1 不正保有物資等特別措置特別会計法等を廃止する法律案

1 郵便貯金特別会計法案

1 会計法の一部を改正する法律案

1 不正保有物資等特別措置特別会計法等を廃止する法律案

不正保有物資特別措置特別会計法
(昭和二十三年法律第三十六号)

不正保有物資等の対価を登録国債で済済することに関する法律(昭和二十三年法律第三十五号)

附則

1 この法律中附則第二項の規定は、公布の日から、その他の規定は、昭和二十六年四月一日から、施行する。

2 政府は、旧不正保有物資等の対価を登録国債で済済することに関する法律(以下「旧法」という。)第四條第一項の規定により昭和二十六年三月三十一日までに発行された登録国債の償還金及び利子のうち、その支拂に必要な金額に相当する金額が昭和二十五年度までに不正保有物資等特別措置特別会計から國債整理基金特別会計に繰り入れられたもの以外のものを、旧不正保有物資等特別措置特別会計法(以下「旧特別会計法」という。)第六條第一項の規定にかかわらず、一般会計の負担とすることができる。

3 不正保有物資等特別措置特別会計において、昭和二十五年度における歳入の収納済額から、同年度における歳出(一般会計への繰入金を除く。)の支出額を控除して残余があるときは、当該残余額は、昭和二十五年度の一般会計の歳入に繰り入れるものとする。

4 不正保有物資等特別措置特別会計法等を廃止する法律案

5 不正保有物資等特別措置特別会計の昭和二十五年度の出納の完結の際同特別会計に属する資産及び負債は、一般会計に帰属するものとする。

6 旧法は、この法律施行前臨時命令、法務省令、外務省令、大蔵省令、商工省令、運輸省令、通信省令、労働省令第二号。以下「規則」という。)第二條から第四條までの規定により政府が譲り受けた規則第一條に定める不正保有物資の對価で、この法律施行の際までにその決済を終らなかつたものの決済を入れられたもの以外のものを、旧不正保有物資等特別措置特別会計法(以下「旧特別会計法」という。)第六條第一項の規定にかかわらず、一般会計の負担とすることができる。

7 前項の規定によりなおその効力を有する旧法第四條第一項の規定を有する旧法第六條第一項の規定により発行する登録国債は、一般会計の負担とする。

8 郵便貯金の事業の業務の取扱いに関する諸費及び同事業の業務取扱費等の経理

9 第四條 郵便貯金の事業の業務の取扱いに関する諸費及び同事業の業務取扱費等の経理

10 第五條 この会計においては、資金運用部預託金の利息、第十四條第二項但書の規定による借入金及び附屬雜收入をもつてその歳入とし、郵便貯金の利息、前條第一項の規定による郵政事業特別会計への繰入金、第十四條第一項の規定による一時借入金の利息、同條第二項但書の規定による借入金の償還金及び利子並びに附屬諸費をもつてその歳出とする。

11 第六條 この会計において、毎会計年度における損益計算上利益を生じたときは、これを積立金に組み入れて整理するものとする。

12 第七條 この会計においては、歳入歳出予定計算書は、歳入の性質及び歳出の目的に従つて、款及び項に区分する。

13 第八條 内閣は、毎会計年度、この会計の予算を作成し、一般会計の予算とともに、国会に提出しなければならない。

14 第九條 この会計において、毎会計年度における損益計算上利益を生じたときは、これを積立金に組み入れて整理するものとする。

15 第十条 この会計において、毎会計年度における歳入歳出予定計算書は、歳入歳出予定計算書の作製及び送付

16 第十一条 郵政大臣は、毎会計年度、

は、旧特別会計法第七條の規定を除きなお從前の例による。

金 第十二條の規定による郵政事

業特別会計の保有金及び未收金そ

の他の債権とする。

1 前前年度の貸借対照表及び損益計算書

2 前年度及び当該年度の予定貸借対照表及び予定損益計算書

(歳入歳出予算の区分)

3 前年の歳入歳出予算は、歳入の性質及び歳出の目的に従つて、款及び項に区分する。

4 借対照表及び予定損益計算書

(歳入歳出予算の区分)

5 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

6 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

7 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

8 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

9 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

10 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

11 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

12 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

13 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

14 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

15 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

16 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

17 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

18 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

19 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

20 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

21 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

22 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

23 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

24 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

25 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

26 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

27 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

28 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

29 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

30 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

31 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

32 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

33 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

34 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

35 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

36 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

37 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

38 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

39 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

40 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

41 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

42 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

43 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

44 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

45 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

46 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

47 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

48 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

49 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

50 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

51 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

52 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

53 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

54 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

55 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

56 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

57 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

58 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

59 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

60 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

61 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

62 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

63 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

64 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

65 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

66 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

67 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

68 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

69 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

70 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

71 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

72 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

73 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

74 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

75 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

76 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

77 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

78 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

79 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

80 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

81 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

82 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

83 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

84 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

85 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

86 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

87 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

88 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

89 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

90 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

91 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

92 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

93 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

94 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

95 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

96 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

97 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

98 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

99 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

100 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

101 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

102 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

103 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

104 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

105 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

106 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

107 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

108 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

109 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

110 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

111 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

112 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

113 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

114 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

115 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

116 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

117 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

118 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

119 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

120 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

121 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

122 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

123 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

124 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

125 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

126 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

127 前項の歳入歳出予定計算書は、左の書類添付しなければならない。

128

歳入歳出予定計算書と同一の区分により、この会計の歳入歳出決定計算書を作製し、大蔵大臣に送付しなければならない。

2 前項の歳入歳出決定計算書には、当該年度の貸借対照表及び損益計算書を添附しなければならない。

(歳入歳出決算の作成及び提出)

第十一条 内閣は、毎会計年度、歳入歳出予算と同一の区分により、その会計の歳入歳出決算を作成し、一般会計の歳入歳出決算とともに国会に提出しなければならない。

(借入金及び一時借入金の事務)

第十五条 前條第一項及び第二項但書の規定による一時借入金及び借入金の借入及び償還に関する事務は、大蔵大臣が行う。

(国债整理基金特別会計への繰入)

第十六条 第十四條第一項の規定による一時借入金の利子並びに同條第二項但書の規定による借入金の償還金及び利子の支出に必要な金額は、毎会計年度、国债整理基金特別会計に繰り入れなければならない。

(郵便貯金の拂いもどし資金)

第十二条 郵政大臣は、郵便貯金の受入金を、郵便貯金の日常の拂いもどし資金に充てるため必要と認める金額に限り、郵政事業特別会計に保有させることができる。

(郵便貯金の受入金の繰替使用)

第十三条 この会計において郵便貯金の利子の支拂上現金に不足があるときは、郵便貯金の受入金を繰替使用することができる。

2 前項の規定による繰替使用金は、当該年度において償還しなければならない。

(一時借入金及び借入金)

第十四条 この会計において、郵便貯金の利子以外の歳出の支拂上現金に不足があるときは、この会計

の負担において、一時借入金をすることができる。

2 前項の規定による一時借入金は、当該年度において償還しなければならない。但し、歳入不足のため償還できないときは、その償還することができる。

3 前項の規定による繰入金については、後日この会計から、当該繰入金に相当する金額に達するまでの金額を、予算の定めるところにより、一般会計に繰り入れなければならない。

4 この法律施行の際ににおける郵便貯金の大蔵省預金部への預入金及び預入未済金並びに郵便貯金の預かり金に係る債権債務は、この会計に帰属するものとする。

5 郵政事業特別会計法（昭和二十四年法律第百九号）の一部を次のよう改正する。

第二條中「郵便貯金、郵便為替及び郵便振替貯金の事業」を「郵便貯金」に改める。

6 郵政省設置法（昭和二十三年法律第二百四十四号）の一部を次のように改正する。

第九條中第十六号を第二十二号とし、以下六号ずつ繰り下げ、第三号を第四号とし、以下第十五号までを一号ずつ繰り下げ、同條第二号の次に第三号として次の一号を加える。

(余裕金の預託)

第十七条 郵政大臣は、資金運用部

資本法（昭和二十六年法律第

号）第二條第一項の規定により預

託する場合を除く外、この会計の

余裕金を資金運用部に預託するこ

とができる。

(実施規定)

第十八条 この法律の実施のための

手続その他その執行について必要

な事項は、政令で定める。

1 この法律は、昭和二十六年四月一日から施行する。

2 政府は、この会計の毎会計年度の歳入が不足するときは、その不足を補てんするため、当分の間、

当該年度において、予算の定めるところにより、一般会計からこの会計に繰入金をすることができる。

2 前項の規定による法律案会計法の一部を改正する法律

会計法（昭和二十二年法律第三十

五号）の一部を次のよう改正す

る。

第十九條中「国债の元利拂」の下に

「及び國の保管に係る現金の利子の支拂」を加える。

第三十五條中「有価証券の取扱」の下に「及びその保管に係る現金の利子の支拂」を加える。

附 則

この法律は、昭和二十六年四月一日から施行する。

同日本委員会に左の事件を付託された

一、国内産砂糖の消費税廃止に関する請願（第七七九号）

一、嚴原港の開港維持に関する請願（第七九四号）

一、たばこ事業の民営移管反対に関する請願（第八七九号）

一、古書籍業者に対する課税適正化の陳情（第一六七号）

一、寒地住民の所得税軽減に関する請願（第一七三号）

一、公務員の退職給與金免稅に関する請

願（第一八五号）

一、福島県郡山市堂前町七

六たばこ耕作組合連合

び支出の調定及び出納をすること。

十九 郵便貯金特別会計制度に関する研究をすること。

二十 郵便貯金特別会計の原簿計算をすること。

紹介議員 島津 忠彦君

鹿児島県の特産である黒砂糖に対し、現在百斤当たり千八百円の砂糖消費税が課せられているため、生産農家一戸当たり約五千円の負担となり、その上所得税としても課税される等生産者にとって極めて過重な負担となつてゐるから、この際国内産砂糖の消費税を廃止せらるたいとの請願。

十一 郵便貯金及び郵便振替貯金の預かり金並びに郵便貯金特別会計の積立金及び余裕金を資金運用部に預託すること。

十二 郵便貯金特別会計制度に関する研究をすること。

三 前項の規定による繰入金については、後日この会計から、当該繰入金に相当する金額に達するまでの金額を、予算の定めるところにより、一般会計に繰り入れなければならない。

4 この法律施行の際ににおける郵便貯金の大蔵省預金部への預入金及び預入未済金並びに郵便貯金の預かり金に係る債権債務は、この会計に帰属するものとする。

5 郵政事業特別会計法（昭和二十四年法律第百九号）の一部を次のよう改正する。

第二條中「郵便貯金、郵便為替及び郵便振替貯金の事業」を「郵便貯金」に改める。

6 郵政省設置法（昭和二十三年法律第二百四十四号）の一部を次のよう改正する。

第九條中第十六号を第二十二号とし、以下六号ずつ繰り下げ、第三号を第四号とし、以下第十五号までを一号ずつ繰り下げ、同條第二号の次に第三号として次の一号を加える。

7 第七九四号 昭和二十六年二月十九日受理

嚴原港の開港維持に関する請願 請願者 長崎県下県郡嚴原町長

崎県対馬支庁内 平原紹介議員 藤野 繁雄君

秋山俊一郎君

嚴原港は、朝鮮動乱勃発後對韓貿易船の出入がと絶したため、關稅法第九十九條により開港としての資格を失う運命にあるが、同港は地理的、經濟的に對韓貿易の根拠地として最も有利な地位にあるから、動亂平定後當然想される對韓貿易を考慮して、嚴原港の開港維持に関し特別の措置を講ぜられたとの請願。

8 第八七九号 昭和二十六年二月二十一日受理

たばこ事業の民営移管反対に関する請

願

一、寒地住民の所得税軽減に関する請

願

一、古書籍業者に対する課税適正化の

陳情

一、公務員の退職給與金免稅に関する請

願

一、福島県郡山市堂前町七

六たばこ耕作組合連合

一、郵便貯金特別会計の決算を加える。

9 同條に第十七号から第二十一号までとして次の五号を加える。

一、公務員の退職給與金免稅に関する請

願

一、寒地住民の所得税軽減に関する請

願

一、古書籍業者に対する課税適正化の

陳情

一、公務員の退職給與金免稅に関する請

願

一、寒地住民の所得税軽減に関する請

願

紹介議員 野田 邦一君

第一八五号 昭和二十六年二月二十日受理

たばこ事業を民営に移すと、国の財政経済に深刻な影響を與えるばかりでなく、たばこ産地を混乱に陥れ、ひいては、農村経済を破壊することになるから、たばこ事業の民営に反対であるとの請願。

第一六七号 昭和二十六年二月十九日受理

古書籍業者に対する課税適正化の陳情

陳情者 大阪市南区日本橋筋二ノ

五〇大阪府古書籍商業協同組合

理事長 松本政治

金詰り、その他最近のいちじるしい経済情勢の変化に伴い、古書籍の営業は年々窮迫しているが、とくに昨年来の状況はいちじるしく悪化し、転廻業者が続出している。しかも古書籍業者に対する課税は、営業の実体がは搗されていないため、極めて不合理な課税となつて業者の営業に多大の負担を與えているから、古書籍業者に対する課税の適正化を図られたいとの陳情。

第一七三号 昭和二十六年二月二十日受理

寒冷地住民の所得税軽減に関する陳情

陳情者 北海道小樽市議会議長
岩谷靜衛

寒冷地の住民は、自然的環境に支配されて基礎的生活消費指数が温暖地方のそれにくらべて極めて高率であるから、寒冷地住民の所得税につき一定限度以内の所得に対しては税率の引下げまたは基礎控除および勤労控除の額を引き上げるより、税法を改正せられたいとの陳情。

公務員の退職給與金免稅に関する陳情

陳情者 和歌山県議会議長 内田 安吉

退職給與金は、現行所得稅法においては俸給、賞與等と同一視されその年度の他の給與所得と通算し課税される。然しながらわが国の国民经济と国民家計の現況よりみれば、退職給與金は失業保険金の補足であり、次の生業を得るまでの生活必需資金的性格を有するものであるから、公務員の退職給與金に対しても現行所得稅法を改正し、課税の対象より除外されたいとの陳情。

昭和二十六年三月十一日印刷

昭和二十六年三月十二日発行

参議院事務局

印刷者 印刷序